

官報

號外

明治二十九年一月二十五日 土曜日 內閣官報局

○第九回衆議院議事速記録第十一號

明治二十九年一月二十四日(金曜日)午後一時十五分開議

議事日程 第十一號 明治二十九年一月二十四日

午後一時開議

- 第一 (甲)明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加案
- 第二 (乙)明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加案
- 第三 (丁)明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加案
- 第四 (甲)明治二十八年年度各特別會計歳入歳出豫算追加案
- 第五 (乙)明治二十八年年度特別會計歳入歳出豫算追加案
- 第六 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件
- 第七 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法案(政府提出)
- 第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第九 公立學校職員退隱料等ニ關スル法律案(政府提出)
- 第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第十一 森林法案(政府提出)
- 第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○議長(楠本正隆君) 諸君、是ヨリ諸般ノ報告ヲ爲シマスル

(佐脇書記官朗讀)

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

森林法案

明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加案

政府ヨリ左ノ修正案ヲ提出セラレタリ

明治二十九年年度歳入歳出總豫算修正案

明治二十九年年度各特別會計歳入歳出豫算修正案

明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加修正案(乙)

明治二十八年年度特別會計歳入歳出豫算追加修正案(乙)

貴族院ヨリ送付セラレタル議案左ノ如シ

司法官試補實地修習期間ニ關スル法律案

貴族院ニ於テ明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒アリ

第一讀會

第一讀會

第一讀會

田中正造君外六名提出ニ係ル陸軍軍用品買入及軍夫雇入ニ關スル質問ニ對シ大山陸軍大臣ヨリ答辯アリタリ

○議長(楠本正隆君) 田中正造君ニ御相談ヲ致シ、且ツ諸君ニ御協議ヲ請ヒマスルガ、田中正造君ノ政府ヘ質問致サレタル其答辯ハ誠ニ浩瀚ニシテ、紙數ニシテハ四十枚以上ニ上リマス、而シテ其中ニハ表モアリ、數字モアリ、大分ノヲ朗讀致シマスルト、三十分モ確ニ費シマスダケノ字數ニナツテ居マス、實ハ之ヲ朗讀致スハ正式デゴザリマスケレドモ、議事速記ニ明日ハ明ニ掲ゲマスコトデ御差支ナクバ、朗讀ヲ省略致シタウゴザイマス

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

(左ノ答辯書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

衆議院議員田中正造君外六名ヨリ石炭外七件ニ關スル質問ニ對シ陸軍大臣ヨリ答辯書提出ニ付及御廻付候也

明治二十九年一月二十一日 內閣總理大臣 侯爵伊藤博文

衆議院議長楠本正隆殿

衆議院議員田中正造君外六名提出石炭外七件ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治二十九年一月二十日

陸軍大臣 侯爵大山巖

衆議院議長楠本正隆殿

田中正造君外六名ノ質問ニ對スル答辯書

田中正造君外六名ノ質問ニ對スル答辯書

客歲十二月二十九日田中正造君外六名ヨリ提出セラレタル陸軍軍用品買入及軍夫等雇入ニ關スル質問書ニ對シ答辯ヲ爲ス事左ノ如シ

第一 石炭云々ノ質問ニ答ヘントスルニハ先陸軍省ニ於ケル石炭買上ケノ來歴ヲ述フルノ必要アルヲ認メタルニ依リ聊カ其來歴ヲ陳ヘ而シテ後陸

軍省ニ於テ買上ケタル石炭ノ代價ト海軍省ニ於テ買上ケタル石炭ノ代價

比較如何ノ結果ヲ陳述セント欲ス

明治二十七年六月兵ヲ朝鮮國ニ出スニ當リ其軍隊運送ノタメ日本郵船及大阪商船ノ兩株式會社所有ノ汽船ヲ借り上ケテ以テ運送ノ用ニ供シ而シテ

其船舶運轉ノタメニ要スル石炭ハ該會社ニ命ジテ石炭坑主ト特約ヲ結ハ

シメ以テ石炭ノ價格ヲシテ低價ニ爲サシメ運送船ニ積込マシメ

燃料ト爲スコトニ計畫ヲ爲シタリ爾來出兵ノ夥多ナルニ從テ運送ノ事

業頓ニ擴張シ明治二十七年八月ノ頃ニ於テハ既ニ日本郵船及大阪商船ノ

兩株式會社ヨリ借り上ケタル船舶ノ外ニ尙數艘ノ船舶ヲ借り上ケルノ必

要ヲ生シタルニ依リ右兩會社以外ノ者ニ於テ所持スル運送船ヲモ借り上

ケル事ニ爲セリ而シテ其船舶ニ要スル石炭ハ三井物產會社ニアリテハ之

ヲ自辨セシメ其他ノ各船主ニアリテハ其之ヲ自辨シ得ヘキモノハ自辨セ

シメ其自辨シ能ハサル者ニハ日本郵船株式會社所有ノ石炭ヲ使用セシム

ル事ニ爲シタリ然ルニ日本郵船及大阪商船ノ兩株式會社以外ノ者ヨリ借

リ上ケタル船舶所有主(三井物産會)ハ其船舶ニ要スル石炭ハ到底之ヲ自辨シ能ハサルコトヲ申出好テ日本郵船株式會社ノ石炭ヲ使用セリ又運送上ノ必要ヨリ陸軍省ニ於テ借り上ケタル船舶ノ大數ハ門司港ヲ以テ石炭補給ノ場所ト定メタルニ依リ下ノ關兵站兼碇泊場司令部ハ日本郵船株式會社ニ命シ特ニ同地ノ石炭貯蓄場ヲ擴張セシメ各運送船ノ爲メ迅速且確實ニ石炭ヲ搭載シ得ルノ手段ヲ執ラシメタリ然ルニ其後日本郵船及大阪商船ノ兩株式會社以外ノ各船主ニ於テモ石炭ヲ自辨ト爲サシメラレシコトヲ請求シ來ル者アリ依テ下ノ關兵站兼碇泊場司令部ハ其請求ヲ認可シ姑ク之ヲ實行セリ而シテ後其實行上經驗スル所ニ依レハ石炭ノ實買ニ就テハ炭坑主、仲買商、船長等ノ間ニ種々ノ關係ヲ有シ其手數料ノ厚薄ニ依リ代價區々ニ涉ルノミナラス或ハ炭質ヲ撰マス或ハ船舶ニ積入レノ際其數量ノ検査ニ就テモ不充分ニシテ其受授ヲ不明ノ中ニ結了スル等ノ弊害ナシトモス加之各船各箇ニ炭坑ノ積ミ入レヲ爲サシムルニ就テハ其積入レノ爲メ多クノ時間ヲ費シ軍需品輸送ノ時機ヲ失シ甚ダシキ不利益ヲ感セリ畢竟如此ノ境遇ニ至ルハ支離分裂事ヲ爲スニ原因スルモノト認メタリ依テ以上述フル所ノ石炭代價ノ區々タルヲ成シ得ル限リ一定セシメ又炭質ヲ精撰シ又積込ノ爲メニ費スル所ノ時間ヲ節制セントスルニハ從來石炭ノ事ニ最モ經驗アル者ヲシテ是等ノ事業ヲ一手ニ擔當セシムルノ得策タルヲ認ム然リ而シテ是等ノ事ヲ擔當セシムルニハ多クノ船舶ト多クノ社員ヲ有シ石炭ノ事ニ就テ經驗アル所ノ日本郵船株式會社ヲシテ之ニ從事セシメ既ニ借り上ケタル微力ナル船主ノ所有ニ係ル船舶ニ要スル石炭ハ總テ該郵船株式會社ヨリ其供給ヲ爲サシムル事ニ爲シタリ如此微力ナル船主ノ所有ニ係ル船舶ニ要スル石炭ノ供給即チ石炭ノ積込ノ最モ敏活ニ最モ確實ニ運ハシメシメ爲メ石炭置場トシテ門司港ニ於ケル下ノ關兵站司令部用地ノ若干ト尙餘船曳キ船用トシテ小蒸汽船ヲ該郵船會社ニ貸與セリ是等ノ便利ヲ與ヘタル爲メ各運送船ノ門司港ニ碇泊スル時間ヲ減少スルヲ得以テ軍事輸送上ニ夥多ノ利益ヲ得タリ然リ而シテ尙其後石炭供給ノ方法ヲ可成確實適當ナラシメンカ爲メ其手段ヲ研究シ其供給ニ就テ左ノ如ク三種ノ方法ヲ試ミント欲シタリ

一 運送船ノ船主ニ於テ其船舶ニ適宜供給セシムル事

二 全ク官衙ニ於テ直接供給ヲ爲ス事

三 石炭ノ供給ニ就テ適當ト認メタル會社ニ委託シテ供給セシムル事

右第一法ハ各船主ヲシテ各利益スル所アラシメ且一般ニ對シ最モ穩當ノ方法ナルカ如シト雖モ前既ニ述フルカ如ク各船主任意ノ積入ヲ爲スカ爲メ石炭ノ代價區々ニ涉リ且炭質不其其他積込上ノ検査等不確實ノ弊害ヲ醸スト又積込ニ多クノ時間ヲ徒費シ時機ヲ失スルノ患ヒアルヲ以テ此方法ヲ採用セサリシ

又第二法ノ内ニ二様ノ別アリ其一ハ炭坑主ヨリ直ニ買入レ全ク官衙ニ於テ運搬ヲ爲シ各運送船ニ供給スルモノ其ニハ門司港陸上ニ於テ炭商ヨリ買入レ官衙ニ於テ運送船ニ供給スルモノ之レナリ此二様ノ方法中孰レヲ撰定スルモ其之ヲ實行セントスルニハ從來石炭ノ事ニ慣熟セル吏員ヲ使用セサルヲ得ス然ルニ陸軍省ニ於テハ平時石炭ノ需用ナキニ依リ自

然如此ノ事ニ經驗ナク爲メニ是等石炭ノ供給ニ與カラシムルニ適當ナル吏員ヲ有セサルノミナラス又當時俄カニ之ヲ得ルコト容易ナラス凡ソ石炭ノコトニ就テハ年來其事ニ關係シツ、アル日本郵船大阪商船三井物產及三菱ノ如キ諸會社ト雖モ石炭ヲ取扱ハシムル者ハ嚴正且沈密ノ役員ヲ選定シ極メテ精確ニ其監視ヲ爲サシムルニモ拘ラス尙且動モスレハ炭商ノ購著ヲ免レス況ンヤ其事ニ慣熟セサル吏員ヲシテ之ヲ取扱フ爲サシメ殊ニ多數ノ運送船ニ石炭ノ供給ヲ取扱ハシムルニ於テハ寧ロ検査監視ヲ爲サシメントスルノ目的ハ却テ彼等炭商ノ好餌ト爲ルノ掛念アルヲ以テ陸軍省吏員ノ如キ其事ニ經驗ナキ者ヲシテ其取扱ヲ爲サシムルハ却テ不利益ナルノミナラス軍事上最モ緊要トスル敏活且確實ニ事ヲ實施スルニ妨ケアルニ依リ此方法ヲ採用セサリシ

其第三方法タル會社ニ委託シ其供給ヲ爲サシムルハ當時既ニ實行シアル所ニシテ前調査ノ結果トシテ爾後ト雖モ尙此方法ニ據ルヲ適當ト認メタルニ依リ日本郵船株式會社ヲシテ其供給ヲ繼續セシメタリ而シテ同社ヨリ買入レタル石炭一噸ノ代價平均六圓貳拾四錢九厘ナリシモ逐々輸送上ノ順序モ整頓シ又石炭ノ供給モ漸次増加スルノ狀況ヲ認メタルニ依リ陸軍省ハ猶一層價格ノ低廉ヲ爲サシムルコトニ躊躇セス昨明治二十八年四月十五日以後ハ一噸ノ代價金五圓五拾錢ニ改メシメ其石炭供給ニ就キ別紙一號寫ノ通命令書ヲ該社ニ交付セリ而シテ下ノ關運輸通信部ヲシテ其供給上ノ監視ヲ嚴確ニ爲サシメタリ右ハ陸軍省ニ於テ各運送船ニ要スル石炭供給ノ來歴トス

今海軍省ニ於テ買上ケタル石炭價格ト陸軍省ニ於テ買上ケタル石炭價格トニ就キ對照スルトキハ別表二三四號ノ通りニシテ陸海兩省ニ於テ其買上ケノ時期ト買上方法ノ異ナルニ隨テ其價格ニ多少ノ差違アリト雖モ下ノ關ニ於テ右兩省ノ買上ケタル石炭ノ代價ヲ調査スルトキハ別紙五號ノ通り海軍省ニ於テ買上ケタル軍艦用石炭一噸ノ平均代價ハ五圓八拾九錢參厘ニシテ陸軍省ニ於テ買上ケタル一噸ノ平均代價ハ五圓八拾六錢參厘トナルニ依リ差引海軍省ノ買上代價ハ陸軍省ノ買上代價ニ比シ參錢ヲ増加ス尤モ海軍省ニ要スル石炭ハ平時ヨリ漸次一定ノ場所ニ貯藏シ置キ其需用ノ時々各軍艦ニ積込ムモノニシテ其一噸平均代價ニ付キ僅カニ參錢ノ差違アルモノハ海軍ニアリテハ陸上ヨリ軍艦ヘノ運送ニ掛ル辭船其他積入レ人夫等ノ雇賃ハ總テ右石炭代價ノ外ニ仕拂フ爲スト雖トモ陸軍省ニ於テハ運送船ニ積込ミマテノ一切ノ費用ハ石炭代價ニ含有スルヲ以テ右等ノ費用ヲ計算スルトキハ海軍軍艦用ノ石炭ハ質問者ノ云ヘル如ク陸軍省ニ於テ買上ケタル石炭代價ニ比シ高價ノ石炭ヲ要スルニ依リ陸軍省ノ方低價ノ石炭ヲ使用セシメ結果トナル尤モ海軍軍艦用石炭特別精製ナルヲ以テ其價ノ貴キハ當然ナリ

第二 毛布類ノ營業ニ毫末關係ナキ者ヨリ毛布類ヲ買入レタル事及滿州地方ニ於テ防寒具ノ爲メ要スル毛布買上ケ時期ノ兩件ハ實際互ニ關係係ルヲ以テ右兩件ニ對シテハ併セテ其答辯ヲ爲サント欲ス

抑モ日清ノ開戰ニ就テ軍隊ヲ出征セシメタルハ、ニ當リ其初期ニアリテハ曾テ準備シアル所ノ毛布ヲ以テ其用ヲ辨セシト雖モ逐次軍隊ノ増發スル

ニ隨テ其之ニ從屬スル所ノ軍夫及野戰病院其他運送船中ニ於テ患者ニ要
スルモノト尙且時期ノ寒冷ニ移ルニ隨ヒ曾テ各員ニ支給シタル半部毛布
一枚ノミニテハ其健康ヲ維持スルコト能ハサルニ依リ尙半部毛布一枚ヲ
加給スルノ必要ヲ生シ加之追々嚴寒ノ時期ニ際セハ從前支給シタル絨外
套ノミニテハ到底嚴寒ヲ防ク事能ハサルヲ感シタルニ依リ種々研究ヲ盡
シ終ニ毛布ヲ以テ外套ヲ製シ普通外套ノ上ニ覆ハシムルノ適當タルヲ認
メ茲ニ於テ毛布ヲ以テ外套及頭巾並ニ手套ヲ調製シ給與ヲ爲スコトニ決
ス然ルニ右外套用毛布ハ平時ヨリ其準備アルニアラスシテ其調製ノ爲メ
ニハ約二十萬枚餘ノ毛布ヲ要スル計算ヲ見ルニ至レリ故ニ出師準備ノ
爲メ貯藏セル所ノ毛布ニテハ其所要數ノ半數ニモ引足ラサルニ依リ不
得止非常ノ手段ヲ執ルニアラサレハ其需用ヲ充タスコト能ハサルヲ以テ
右等ノ爲メ不足スル所ノ毛布ハ第一ニ内地各衛戍病院備付品及後備諸
隊等ニ支給シタル毛布ヲ引揚ケ其代用トシテ普通ノ蒲團ヲ支給シ其引揚
ケタル毛布ヲ以テ外套調製用ノ材料ニ供シタルモ尙不足ヲ告クルニ至
リタルヲ以テ尙且内地ノ各商ニ於テ所有ノ毛布ハ成シ得ル限りノ手段ヲ
執リ其購買ヲ爲スニ至タレリ前既ニ陳フルカ如ク其當時毛布ノ需用供給
ニ就テハ非常ノ平均ヲ失ヒタルヲ以テ普通ノ購買方ニノミ依ルトキハ
軍隊ノ給養上ニ不容易不都合ヲ醸生スルノ恐レアルニ依リ其所有者ノ如
何ヲ問ハス毛布ノ供給ヲ申出ツルモノアルトキハ唯其品質適當ニシテ代
價亦相當ト認ムルモノハ總テ之ヲ購入スルノ止ムヲ得サルニ必要ニ迫
ラレタリ當時ノ狀況以上陳フルカ如ク如何ナル手段ニ依ルモ唯毛布ヲ得
ルニアラサレハ軍隊ノ給養上ニ不足ヲ告ケシムルノ恐レアルヲ以テ從來
該品ノ途ヲ辨シタルモノト否ラサル者ト問フノ暇アラサリシ尤モ今同
新ニ購買契約ヲ爲シタルモノニ對シテハ其身元ヲ確ムル爲メ區長若ク
ハ町村長ヲシテ其供給者ノ身元ヲ證明セシメタリ如此臨機ノ手段ヲ執リ
其購買ヲ爲シタルカ爲メ漸ク其目的ヲ達スルニ至タレリ又其防寒外套ノ
調製ニ就テハ明治二十七年ハ九月兩月ノ頃ヨリ之レニ著手シ其調製ノ整備
スルニ隨ヒ陸續海外ニ輸送シ當時在外軍隊ノ爲メニ要スル員數ノ悉皆ハ
同年十二月迄ニ輸送シ終ハレリ然ルニ此防寒外套ノ在外軍隊ニ達セシ時
期ニ遲速ヲ生シタルハ全ク其當時兵站路ニ要スル運搬力ニ不足ヲ告ケタ
ル爲メニシテ其不足ヲ告ケタルハ當時ノ狀況實ニ止ムヲ得サルトハ雖モ
其受領ノ遲延セル軍隊ニ對シテハ甚ダ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ
遼東地方駐屯ノ軍隊ニ要スル防寒外套ノ輸送ハ前陳ノ通り二十七年十二
月迄ニ既ニ輸送シ終リタリト雖モ爾後内地ヲ出發スル軍隊及之ニ從屬ス
ル軍夫其他補充兵及患者等ニ給スヘキ毛布ノ所要數ハ實ニ夥多ニシテ前
陳ノ通り二十七年十二月迄ハ漸ク豫備貯藏品及兵營並ニ内地衛戍病院等
ノ備付毛布ニ至ルマデ之ヲ引揚ケ尙其他内地ニ於テ臨時買上用品ヲ以テ其
需用ニ充テタルモ遂ニ闕乏ヲ告ケ同年十二月以後尙多數ノ毛布ヲ買上ク
ルノ必要ヲ見ルニ至タレリ故ニ同年十二月以後買上ケタル毛布ハ其當時
既ニ海外ニ在ル軍隊ノ爲メニ要スルモノニアラスシテ同年十二月以後派
遣セル者ノ爲メニ要セシモノナリ

第三 鐵詰肉買上ケノ事ニ就テハ昨二十八二月既ニ提出セル答辯書ニ述
ブルカ如ク明治二十七年六月朝鮮國ニ事變ノ生シタル際出征軍隊用トシ
テ牛肉罐詰ノ需用ヲ生セシヤ當時其營業者中資力確實ニシテ製法完全ト
認ムル者甚ダ夥ナク咄嗟ノ需用ニ當リ其之ニ應ジ得ヘキ適當ノモノ寡ナ
カリシヲ以テ舶來品ニシテ普通通商買ノ手ニ貯藏シタルモノ及ヒ漸次輸入
シ來タルモノ等ヲ買收シ以テ總ニ其需用ヲ充タセシカ爾後該品ノ需用増加
スルニ隨テ其供給者續々内地ニ興起セシニ依リ陸軍省ハ内國ノ製造品ヲ
購買シ其需用ニ供シタルモ時將ニ夏氣ニ際シタルノミナラス其製造所ノ
如キモ俄カニ設立セシモノナルニ依リ製造方ニ就テモ不充分ヲ免カレサ
ルカ爲メ腐敗品多ク又僅少ノ時間ニ多數ノ需用品ヲ製造スルヲ以テ自然
其監督上ニモ行居カサル廉アルニ依リ粗製品又ハ其荷作り等ニ不完全ノ
所爲アルヲ認メタリ故ニ陸軍省ニ於テハ該品調査委員ヲ選定シ一昨明治
二十七年十月十五日ヲ期シ全國内重ナル罐詰肉營業者ヲ陸軍省ニ會同セ
シメ該品ノ製造方法等ヲ協議シ而シテ其當時各營業者ヨリ該品ノ供給力
ヲ提出セシメ陸軍省委員ニ於テ更ニ査定セル製造力ニ應ジ需用ノ時々之
ヲ分割製造セシメタルモノニシテ畢竟其需用高ハ製造人及地方ニ就テ分
割セルモノニアラスシテ右ニ會同セシ製造者ノ製造力ニ對シ分割セルモ
ノナリ素ヨリ其需用タルヤ平時ノ需メニ應スルモノナレハ豫メ必要ノ時
期ヲ圖リ連綿之レカ製造ヲ爲サシメハ關西地方ノ製造力ノミヲ以テ其需
用ノ數量ヲ得ルハ敢テ難キニアラスト雖モ戰時ノ需用ニ就テハ如此ナル
能ハス若シ其供給ノ時機ヲ過マルトキハ軍隊ノ生命ニ關係スルヲ以テ其
戰地ニ送付スヘキ數量ハ時々ノ請求高ト其所要ノ時期トニ應ジ廻送スル
モノニシテ前述各製造者ノ内地各地方ノ者ヨリ其標本提出シ終ラサル内
急ノ需用アリシヲ以テ直ニ東京地方ノ製造者ニ命ジタリト雖モ爾來ハ可
成各地ノ製造者ニ對シ公平均一ヲ保タシムルコトニ勉メタリ乍併各製造
者中或ハ器械ノ破損又ハ職工中流行病ニ罹ル者等ヲ生シ爲メニ其製造ヲ
辭シタルモノ等種々ノ故障ヲ生シタル爲メ注文數ニ多少ノ異同ヲ生シ全
體ノ結果ニ於テ二百四十匁入ノ罐詰ニアリテハ東京市民ヨリ買上ケ高
ハ各地方ニ比シ九萬九千五百七十二箇ヲ減シ又四十匁入ノ罐詰ニアリ
ハ其買上ケ高各地方ニ比シ三十八萬三千二百七十九箇ノ増加ヲ見ルニ至
レリ其増加ノ理由ハ最初製造力ヲ査定スル場合ニ於テ四十匁入罐詰肉ハ
各地方ニ比シ東京ノ製造力多カリシト二百四十匁入ノ分ハ東京ニ比シ各
地方ノ分製造力多カリシト又各地ハ前述ノ事故ニ依リ製造力減少シタル
等ニ原因スルモノナリ即チ陸軍省ノ調査委員ニ於テ査定セシ製造力ト爾
後實際罐詰肉ノ製造ヲ命ジタル東京地方ト各地方トノ比較ハ別表六號ノ
如シ而シテ其檢査方ノ如キハ昨明治二十八年二月ニ於テ既ニ答辯セシ如
ク納付ノ物品ハ標本ニ照シ之ヲ檢査シ總テ適當ト認ムルモノヲ受領スル
ハ勿論ナリト雖モ咄嗟ノ需用ニ際シ夥多ノ物品ヲ少數ノ官吏ヲ以テ僅少
ノ時日ニ之ヲ爲サシメタルト又罐詰ノ如キハ開拔點檢スレハ其要ヲ爲サ
サルモノナラヲ以テ外見上適當品ト認メタルモノモ實際使用スルニ當リ
其不適當ナルモノヲ發見セシニ依リ成シ得ル限り嚴重ノ手段ヲ執リ其檢
査ヲ爲サシメタルモ今日ヨリ之ヲ見ルトキハ斷シテ遺憾ナレトセス
又罐詰肉買上ケニ就テ海軍省ハ東京市ノ營業者ヨリ買上ケタル爲サス之
反シ陸軍省ハ東京市民ヨリ買上ケタルハ抑海軍用糧食ハ現品給與

ナルカ故ニ平時ニ於テ航海等ノ爲メ罐詰肉ヲ使用シツ、アリ奈何トナレハ其航海時日永キニ渉ル歟又ハ熱帶地方ヲ經過スル場合ニ於テハ從來ノ内地製造品ハ到底其保存ニ堪ヘサルニ依リ常ニ舶來品ヲ買入レ使用スルノ必要アルニ依リ常ニ若干ノ貯藏品アリ唯僅カニ試驗用トシテ内地製造品ヲ買入レタルノ必要アルニ海軍ニ於テ需用ノ罐詰肉ハ主トシテ外國品ナルヲ以テ其購入ニ就テハ陸軍ニ比例テ取ルコト能ハサルナリ

第四 各師團出師ノ計畫ニ就テハ曾テ當該師團ニ分任シタルヲ以テ出兵ノ爲メ軍隊ニ要スル軍夫雇夫等ノ雇入レニ就テハ地方機關タル當該監督部ニ於テ之ヲ掌理セシメ中央官衙タル陸軍省ニ於テハ該部ノ責任ヲ重シシ其必要ヲ見サル限リハ敢テ之ニ干渉セザリシテ就テハ其地方ノ狀況ニ依リ雇入賃錢ノ如キモ自カラ區々タルヲ免カレシト雖モ全體上多クノ差違ヲ見ス抑近衛師團ノ軍夫ハ小頭ニ六拾五錢ヲ給シ他ノ師團ノ小頭ニ壹圓ヲ給セシニ比スレハ其支給額ニ就キ參拾五錢ノ差違ヲ見ルニ至タレリト雖モ近衛師團ニアリテハ小頭ノ外尙其上一中頭大頭取締總取締ノ四種ヲ置キ其總取締ニハ一圓三十錢取締ニハ一圓大頭ニハ八十五錢中頭ニハ七十五錢取締ニハ一圓又他ノ師團ニアリテハ取締小頭組頭ノ三種ヲ置クモノアリ又小頭十人長二十人長ノ三種ヲ置クモノアリ又取締小頭組頭百人長五十人長二十人長ノ三種ヲ置クモノアリ畢竟是等ハ其地方ノ狀況ト軍夫募集ニ就テハ其責任ヲ負擔スル地方機關ヲシテ之レカ取扱ヲ爲サシメタルヲ以テ其契約ノ結果ニ依リ如此ノ差違ヲ生セシニ外ナラス是等ノ差違ニ就テハ別表七號給料調書ノ如ク近衛師團ノ小頭ハ他ノ師團ノ二十人長若クハ二十五人長ニ稍相當シ同師團ノ中頭ハ他ノ師團ノ五十人長ニ稍相當シ同師團ノ取締ハ他ノ師團ノ小頭ニ稍相當シ同師團ノ總取締ハ他ノ師團ノ百人長ニ稍相當スルヲ見ル如此各師團毎ニ於テ其名稱異ナルニ依リ單ニ小頭ト小頭ト以テ比例ヲ取ルコト能ハス併各師團ニ於テ募集スル所ノ軍夫等ニシテ均シク海外ヘ派遣シ同一ノ役務ヲ勤メシムル者ニ對シ其名稱及賃錢ニ差違アルハ不都合タルヲ認メタルニ依リ更ニ別表八號ノ如ク標準額ヲ規定シ當該地方機關ヲシテ右ノ規定ニ據ラシムル事ニ爲セシヲ以テ其後雇入レ軍夫ノ給料ニ就テハ從前ノ如ク差違ヲ生スルニ至ラサルナリ

又軍夫等ノ募集ニ就テハ前項既ニ述フルカ如ク地方機關タル當該監督部ニ於テ之ヲ掌理シ其軍夫募集ノ必要アルニ當リテハ當該地方ノ狀況ニ依リ其募集ノ方法ヲ定メ假令ハ東京大阪ノ如キ大都市ニアリテハ人夫雇入レノ營業者ニ就キ其募集ヲ爲サシムルコトヲ得ルモ他ノ地方ニアリテハ右等營業者モナキニ依リ縣廳又ハ郡若クハ市役所等ニ協議シ或ハ直接ニ其請負ヲ志願スル者ニ就キ募集ノ契約ヲ爲ス等種々ノ手段ヲ執リ而シテ其契約ニ就テハ相當ノ條件ヲ設ケタリト雖モ出師ノ際シテハ百般ノ事務ヲ咄嗟ノ間ニ處理スルモノナレハ爾後ニ於テ既往ヲ見ルトキハ其契約ノ條件ニ就テモ或ハ不充分ノ廉ナシトモ又契約主ニ於テハ數千人ノ軍夫ヲ各個ニ雇入レヲ爲スコトハ到底實際上爲シ能ハサルニ依リ不得止請負者ヲ定メ軍夫ノ身元及其被服等ノ事ヲ擔當セシムルノ必要アルニ依リ請負者ヲシテ其募集ヲ爲サシムルニ至タレリ然ルニ其募集ヲ爲ス請

負者ハ其事ノ爲メニ要スル諸費宛トシテ被雇人ノ給料中ヨリ幾分ノ手數料ヲ控除スルノ必要アルモ右ノ手數料ハ請負者ト被雇人トノ契約上ヨリ成立スルモノニ就キ官憲ノ命令ヲ以テ之ヲ制限スルハ穩當ナラスト認メ其控除スヘキ金額ノ如キハ彼等ノ自由ニ任セ取テ之ニ干渉セザリシ然ルニ往々其請負者ト被雇人トノ間ニ於テ種々ノ弊害ヲ醸生シ終ニ法廷ヲ煩ハスノ不都合ヲ生シタリ畢竟是等ハ最初契約ノ條件不十分ナルヨリ生スルモノタルコトヲ認メタルニ依リ陸軍省ハ其募集ノ契約上ニ就テ干渉セサルヲ得サルノ必要ニ際セリ依テ別紙九號ノ通り軍役人夫(職工或ハ何々)請負命令書並ニ心得書請書樣式ヲ定メ之ヲ各師團監督部長等ニ示シ爾後軍夫等ノ募集ハ必ス此方法ニ依ラシムルコトニ爲シ嚴然之ヲ勵行セシメタリ茲ニ於テ乎近時ニアリテハ軍夫ト請負者トノ間ニ爭擾ヲ醸シ法廷ヲ煩ハス等ノ弊害ヲ除去スルニ至レリ

第五 陸軍一等軍吏苅谷西之助ハ陸軍省經理局課員ニシテ東京築地倉庫ノ主任ト爲リ今同準備ヒシ糧食品等ノ出納ヲ取扱タルモノナリ昨年五月宇品陸軍糧秣豫備倉庫ヘ派遣ヲ命シ往路汽車中ニ於テ發病自殺ヲ企テ尾ノ道ニテ死去セシハ事實ナリ然レトモ宇品港ニ出張中ノ軍用品検査官ニハアラス又本省ヨリ招還ノ命ヲ受ケ歸京ノ途次ニハアササリシナリ同人ノ死ニ至リタル原因ハ素ヨリ知ルニ由シナシト雖モ別紙十號警察官ノ檢視調書及別紙十一號醫師ノ診斷書ニ依ルモ別ニ異狀ナク且ツ同人擔任ノ事項ニ就キ築地倉庫ニ於テ取扱ヒタル物品出納諸簿等ヲ検査セシメタルニ毫モ不正ノ所業アリシコトヲ認メサリシ

前各項ニ於テ既ニ陳フルカ如ク軍需品ノ購買及軍夫等募集ノ事ニ就テハ本大臣ハ勉メテ其行爲ヲ確實適當ナラシメントスルノ意思切ナルニ依リ其行爲ニシテ弊害ノ生スルモノアルヲ認メタルトキハ銳意其矯正ヲ爲サシメタルモノニシテ尙將來ト雖モ其方法ノ善良ナルモノヲ認ムルトキハ飽マテ之レカ改良ヲ咨マサルナリ

日本郵船株式會社

陸軍大臣ハ軍事ノ運輸ニ係ル船舶ニ要スル石炭ヲ左ノ約款ニ從ヒ日本郵船株式會社ニ命シテ供給セシム

第一條 其會社ハ各船ニ於テ石炭ノ積入ヲ要スルトキハ馬關運輸通信部ノ命令ニ依リ積入ヲ爲スヘシ

第二條 其會社ハ石炭積入濟ノ上ハ當該船長ヨリ監視部員ノ檢印アル受領證書ヲ受取リ置キ代價請求ノ際添付スヘシ

第三條 貯藏セル石炭若クハ積入ノ際馬關運輸通信部ヨリ部員ヲ派遣シ其品質數量等ヲ検査スルコトアルヘシ若シ他物ヲ混入セシトキハ更ニ適當品ト交換セシムルカ若クハ若干量ノ内ヨリ其不良ナル數量ヲ引去リ總量ヲ算定ス但此場合ニ於テハ交換費用ヲ要スルモ供給者ノ負擔トス

第四條 石炭ノ品位ハ炭質運送用船ノ使用ニ堪ヘキモノヲ撰ミ其代價ハ船舶ヘ積込迄ノ諸費ヲ込メ一噸ニ付金五圓五十錢トス但シ神戸橫濱ノ兩所ニ於テ積入ノ石炭代價ハ其場所ノ時價ニ因ル

第五條 石炭代價ノ仕拂ハ其積入ノ既濟部分ニ對シ領收證書ニ馬關運輸通

信部ノ命令書竝ニ各船長ノ石炭受領證書ヲ添ヘ陸軍省經理局第三課長ニ致スヘシ

第六條 其會社ハ急需ノ供給ニ關シテナカラシムルノ程度迄責任ヲ以テ毎ニ若干ノ石炭ヲ指定ノ場所ニ貯藏シ荷ホ之ニ要スル船隻及人夫其他ノ準備ヲ要ス但此費用ハ第四條約定ノ石炭代價ニ屬スルヲ以テ供給者ノ負擔トス

第七條 其會社ハ準備トシテ石炭產地ニ於テ凡毎月三箇月分即チ四萬五千噸ニ對シテハ政府之ヲ擔保ス故ニ產地ト契約ノ月日ハ其都度届出ヲ要ス

第八條 陸軍省ハ今後情況ノ如何ニ依リ前條準備ノ數量ヲ減スルノ必要アルトキハ其減スヘキ數量ヲ協議シテ定ム又其全部ノ必要止ムトキハ其七餘ニ據リ豫テ届出タル契約高ノ内既ニ經過セル日數ニ對スル數量ヲ控除シ其殘量ヲ算定シ陸軍省之ヲ買上ケ或ハ相當ノ補償ヲ爲スヘシ

第九條 其會社ニ於テ本命令書ノ約款ニ違背シタルトキハ陸軍省ハ其會社ヲシテ因テ生シタル諸般ノ損害ヲ補償セシメ又其狀況ニ依リ本命令ヲ解除スルコトアルヘシ

明治二十八年四月十五日

陸軍大臣 伯爵山縣有朋

以上

二號

陸軍運送船ニ要シタル石炭價格調

買上ケ地

門司及下ノ關

同

計

備考

三號

海軍運送船ニ要シタル石炭價格調

買上ケ地

下ノ關

四號

海軍省ニ於テ陸上受領トシテ買收セシ石炭代價調

購買區別

普通

徵發

備考

一

二

三

四

五

六

七

八

衆議院議事速記第十一號 明治二十九年一月二十四日 議長ノ報告

五號

陸軍省買上石炭代價比較表

事	由	一噸平均代	事	由	一噸平均代	比較ノ差
自二十七年六月至二十八年四月運送船へ給與セシ分	山	六・二四九	自二十七年七月至二十八年二月期間ニ於テ陸軍省ト同法ヲ以テ購買ノ分	山	六・〇一八	
自二十八年四月至同年十月前同斷	山	五・四七七	自二十七年六月至同年八月ノ間ニ於テ陸上ニテ購買セシ分	山	五・八八〇	
	海	五・八八〇	徵發購買(但陸上受領)	海	五・七八〇	
	平	五・八六三		平	五・八九三	〇・〇三〇

六號

牛肉罐詰製造力及買上高比較表

製造場所在地	一日ノ製造力	買上高	製造歩割	營業區分	供給者
東京	四・〇〇〇	三二・三八二	八日一分	製造及販賣者	酒田庄次郎
同	二・五〇〇	一〇・五四八	四十日二分	製造者	山田才吉
同	四・五〇〇	一八・三〇六	四十日一分	同	村山光保
同	一・八〇〇	七・三二四	四十日二分	同	水野龍
同	五・〇〇〇	二〇・三四〇	四十日一分	同	岡村文吉
同	二・七〇〇	一〇・八二四	四十日二分	同	合名會社大倉組
同	一・〇〇〇	四・一九四	四十日一分	同	田中長兵衛
同	三・〇〇〇	一二・三三〇	四十日二分	同	田中經一郎
同	一・五〇〇	三七・二九六	二十四日九分	同	岡田榮助
同	二・五〇〇	一九・一七二	二十九日一分	同	合名會社辻商店
同	二・二〇〇	一〇・一七〇	四十日一分	同	町田朝太郎
同	四・〇〇〇	一六・〇二〇	四十日一分	同	笹野甚四郎
同	一・〇〇〇	一六・〇二四	四十日二分	同	鈴木喜太郎
同	一・五〇〇	一八・九四四	三十四日二分	同	中村富郎
同	三・五〇〇	一四・一一二	二十八日二分	同	森清右衛門
同	五・〇〇〇	二五・七〇四	三十二日一分	同	田中幸七
同	八・〇〇〇	一・六七九	五八〇	同	田中助二郎
小計	四・八六〇	二八・〇九八	三十五日一分	製造者	山田才吉
名古屋	一・〇〇〇	三五・〇二八	二十九日二分	製造者	國分勸兵衛
京都	二・二〇〇	三五・〇二八	二十九日二分	製造者	小西儀助
同	二・三〇〇	五三・一七二	二十九日二分	製造者	川橋鉄之助
和歌山	三・一〇〇	九三・八七〇	三十日三分	製造者	森清右衛門
大阪	三・〇〇〇	一〇・五二一	三十五日一分	製造者	合名會社大倉組
同	一・五〇〇	五二・六六八	三十五日一分	製造者	大阪支店
同	三・〇〇〇	六九・〇四八	二十三日一分	製造者	小西儀助
神戶	一・五〇〇	四三・七二二	二十九日一分	製造者	旭用達合資會社

[illegible]

總計 八九、四〇〇、二、九七五、八八一

一 一日ノ製造力ハ工場ノ廢棄器械ノ大小精練、技術者ノ多少等ニ基キ陸軍省委員現場ニ就テ實視査定セシモノナリ但長崎松田ノ工場ハ本人提出ノ書面ニ就テ査定セリ

二 製造歩割ニ於テ各人同一ナラサルハ買上ノ都度箱數（一箱百二十六箇入）ヲ基トシ切上ケ若クハ切捨計算セシト器械ノ破損職工ノ罹病等止ムヲ得サル故障ノ爲メ製造高ヲ減少シ若クハ製造ヲ止メタル等ニ由ル

三 製造者トハ製造場ヲ所有シ自ラ製造シ若クハ技術者ヲ雇用シテ製造スル者又販賣者トハ他人ノ製造セシモノヲ特約販賣スルモノヲ云フ但酒匂次郎ハ自己ノ工場ニテ製造スルモノノ外水産傳習所ノ製造品ヲ特約販賣セリ

四 本表ノ外仙臺ニ三箇所アリト雖モ買上ケシコトナキニ依リ省ケリ

五 東京ト各地方トノ比較ハ左ノ如シ

牛肉四十匁入罐詰	東京	各地	東京ノ方増
一日ノ製造力	四万八千六百箇	四万八百箇	七千八百箇
買上高	百六十七万九千五百八十箇	百二十九万六千三百箇	三十八万三千二百七十九箇
製造歩割	三十四日六分	三十一日八分	二日八分

右比較ノ買上高ニ於テ東京ニ増シタル三十八万三千二百七十九箇ハ東京ノ製造力地方ニ比シ多キト第二項ニ説明セシ事故ニ依リ各地方ノ製造ヲ減シタルト各地方ヨリ提出ノ標本審査以前ニ於テ需用ノ急ナル爲メ東京ニ注文セシトニ由ル今之ヲ東京ノ買上代價一箇金十三錢ニテ積算スルトキハ四万九千八百二十六圓二十七錢トナル

六號ノ二

製造場所在地	製造力 一日ノ產	買上高	製造歩割	營業區分	供給者
東京	二、〇〇〇	一三、六五六	六日八分	製造及販賣者	東京酒匂庄次郎
同	一、〇〇〇	二七、三三六	二十七日三分	製造者	山田才吉
同	一、八〇〇	五九、〇一六	三十二日八分	同	村上光保
同	五〇〇	二〇、四七二	四十日九分	同	永野龍
同	一、七五〇	四五、〇〇〇	二十五日七分	同	岡村文吉
同	七五〇	二七、九一二	三十七日二分	販賣者	合名會社大倉組
同	五〇〇	一四、九二八	二十九日九分	同	田中長兵衛

同	一、五〇〇	四四、五六八	二十九日七分	同	田中經一郎
同	八〇〇	六、四三二	八日	同	岡田榮助
同	三、二〇〇	六一、一〇四	十九日一分	造者	合名會社辻商店
同	一〇〇〇	二九、七八四	二十九日八分	販賣者	町田朝太郎
同	三七〇	一六、五六〇	二十四日八分	製造者	笹野甚四郎
同	二、五〇〇	五八、五三六	二十三日四分	販賣者	岩谷松平
同	五〇〇	八、九〇四	十七日八分	製造者	鈴木喜太郎
同	四〇〇	一一、九〇四	二十九日八分	同	中村富郎
同	二五〇	四、四六四	十七日九分	同	中川幸七
同	四〇〇	九、六二四	二十四日一分	同	田中助二郎
小計	一九、二二〇	四六〇、二〇〇		造者	東京山田才吉
名古屋	五〇〇	一四、五四四	二十九日一分	販賣者	國分勘兵衛
京都	五〇〇	一四、五四四	二十九日一分	同	大阪小西鐵助
同	六〇〇	一二、三六〇	二十日六分	同	大橋鐵之助
和歌山	一、五〇〇	二五、五一二	十七日	同	森清右衛門
大阪	一、〇〇〇	二四、四八〇	二十四日五分	同	合名會社大倉組
同	一、五〇〇	四三、五一二	二十九日	同	大阪支店
同	九〇〇	二六、一一二	二十九日	同	小西鐵助
同	一、二〇〇	一五、六九六	十三日一分	同	旭用達合資會社
神戶	七〇〇	一三、三四四	十九日一分	同	三井物產合名會社
同	七〇〇	二〇、三七六	二十九日一分	製造者	東京鈴木木清
同	四〇〇	一一、六四〇	二十九日一分	同	松島忠雄
同	六〇〇	七、八〇〇	十三日	同	小谷誠甫
岡山	二、〇〇〇	五八、〇三二	二十九日	同	大久保岩三郎
同	二七〇〇	五六、七八四	二十一日	販賣者	岡山中野壽吉
同	八〇〇	二三、二八〇	二十九日一分	同	北野文兵衛
廣島	一、五〇〇	四三、五一二	二十九日	製造者	東京河野廣吉
同	一、〇〇〇	二九、〇四〇	二十九日	同	合名會社大倉組
同	一、三〇〇	三七、七五二	二十九日	同	廣島支店
同	一五〇〇	三四、五一二	二十三日	同	淺枝富三郎
長崎	四五〇	一三、〇八〇	二十九日一分	同	東京逸見勝誠
小計	四八〇	一一、二四八	二十六日	同	廣島武内慶太郎
總計	二、四三〇	五五、七九二			長崎松田仙三
一	四、一六五	一、〇一五、九九二			
二	實視査定セシモノナリ但長崎松田ノ工場ハ本人提出ノ書面ニ就テ査定セリ 製造歩割ニ於テ各人同一ナラサルハ買上ノ都度箱數(一箱二十四箇)ヲ基トシ切上ケ若クハ切捨計算セシト器械ノ破損職工ノ罹病等止ムヲ得サル故障ノ爲メ製造高ヲ減少シ若クハ製造ヲ止メタルト需用高少數ニシテ各人二分劃注文爲シ難キ場合ニハ繼續營業組合願取ニ 詢リ推定供給者ノ内ヨリ數人ヲ選定セシメ之ニ注文スルノ手段ヲ執リシ等ニ由ル				
三	製造者トハ製造場ヲ所有シテ自ラ製造シ若クハ技術者ヲ雇用シテ製造スル者又販賣者トハ他人ノ製造セシモノヲ特約販賣スルモノヲ云フ但酒匂庄次郎ハ自己ノ工場ニテ製造スルモノ、外水産傳習所ノ製造品ヲ特約販賣セシモノナリ				
四	東京ト各地方トノ比較ハ左ノ如シ				

牛肉罐詰價格表(明治二十七年十月決定)

六號附表ノ二

牛肉罐詰改定價格表(明治二十八年八月七日改定)

朱書ハ改定價墨書ハ從前ノ儘据置ノ分
(△印ハ朱書)

七號

給料標準額制定前ニ屬スル各部隊軍夫雇夫給料調

種別	契約部隊
師團	近衛第一師團
師團	第二師團
師團	第三師團
師團	第四師團
師團	第五師團
師團	第六師團
課室	工務局長官邸
三課	局第三課
全警部	治安維持本部
支隊	警備司令部
部通信	運輸通信省
額平均	

名 稱		等 級		地 海		外	
(某)職人		一 二 三 四 五 六 七 八 九 壹		圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓		錢 錢 錢 錢 錢 錢 錢 錢 錢	
八號		給料標準額制定後ニ屬スル各部隊軍夫雇夫給料標準表		拾 拾 拾 拾 拾 拾 拾 拾 拾		錢 錢 錢 錢 錢 錢 錢 錢 錢	
一 備考		表中ノ一區畫内ニ行ニ記シタル給料ニシテ△印ヲ付スルモノハ海外給印ナキモノハ内地給		トス又一行ニ止マルモノハ内外ヲ問ハス同一ノ給料ナリ		二 第五師團ノ百人長馬關兵站兼艇泊場司令部ノ船大工仲仕第六師團ノ人夫字品運輸通信支部	
二		ノ柳子及陸揚人夫等ノ如キハ數同ノ契約ニシテ賃金一定セサルニ付其平均額ニ記載セリ					
井戸掘手傳人足		井戸掘手傳人足		井戸掘手傳人足		井戸掘手傳人足	
土方傳人足		土方傳人足		土方傳人足		土方傳人足	
手傳人足		手傳人足		手傳人足		手傳人足	
大工取締		大工取締		大工取締		大工取締	
同二		同二		同二		同二	
工一		工一		工一		工一	
請員		請員		請員		請員	
從馬		從馬		從馬		從馬	
同丁		同丁		同丁		同丁	
陸揚人夫取締		陸揚人夫取締		陸揚人夫取締		陸揚人夫取締	
同夫		同夫		同夫		同夫	
人力車夫取締		人力車夫取締		人力車夫取締		人力車夫取締	
同小		同小		同小		同小	
鐵道工夫取締		鐵道工夫取締		鐵道工夫取締		鐵道工夫取締	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組		仲仕組	
仲仕組		仲仕組		仲仕組			

者並徵集猶豫中ノ者共

一重罪ノ刑ニ處セラレタルモノ

一豫戒命令履行中ノモノ

第二條 請負人ハ職工ノ現住地實屬職業氏名年齢ヲ記載セル名簿ヲ製シ指

命ノ時日内ニ之ヲ(命令官廳)ニ出スヘシ

第三條 職工ハ指定ノ場所ニ於テ檢査ノ上採用ス檢査ノ上不合格ノ者アル

トキハ直ニ適當ノ者ヲ以テ代ラシムヘシ

但雇上ノ時日ハ檢査完了ノ後官ニ於テ之ヲ命ス又雇上後擅ニ解雇等申出

ルモ採用セズ

第四條 職工ハ雇上中ハ軍屬トシテ軍ノ法律規則ニ依リ取扱フヘキニ付陸

軍讀法ヲ讀ミ聞セ宣誓ヲ爲サシムルニ依リ請負人ハ誓文帳ヲ製シ之ニ署

名捺印 花押又ハ押印ヲセシムヘシ

第五條 請負人ハ職工取締ノ方法ヲ設ケ不都合ナカラシムヘシ但官ノ必要

ニ依リ請負命令書第一條但書ニ據ルノ外ニ職工取締ヲ置モ之レカ爲メ別

ニ給料ヲ増加スルコトナシ

第六條 職工ノ給料ハ内地ニ在リテハ何職百人長一日金何程同五十人長一

日金何程職工一日金何程海外ニ在テハ何職百人長一日金何程同五十人長

支給ス但内地ト海外トノ分界ハ海外ニ向テ本邦某港出帆ノ日ヨリ本邦某

港ニ歸著ノ日迄ヲ海外トス

一 就職ノ日全額

二 疾病傷痍職ニ就カサル者及規定ノ時間服役セサル者ハ半額

但公務ニ起因セルモノハ全額

三 收禁留置若クハ拘留以上ノ處刑ヲ受ケ及自己ノ怠慢ニシテ役務ニ服

セズ又ハ自己ノ不攝生ニ起因シ又ハ喧嘩爭鬭ニ起因シ職ニ就カサル

ノ日ハ給セズ

四 官ニ於テ不都合ノ所爲アリト認メ歸朝ヲ命シタルモノハ其日ヨリ之

ヲ給セズ

第七條 職工ハ雇上地ニ於テ官ノ必要ニ依リ其指定ノ場所ニ宿泊セシムル

コトアルヘシ此場合ニアリテハ宿舍料トシテ一日一人金四錢以内ノ實費

ヲ給ス

第八條 糧食ハ海外派遣中ハ官給タリト雖モ雇上地滞在中ハ役務ノ何タル

ヲ問ハス給料ノ内ニテ自辨トス

第九條 旅費ハ内地ニ在テ旅行ヲ命シ乘車若クハ乗船セシムル時ハ其實費

ヲ給ス但官ニ於テ雇上ノ汽車汽船ニテ旅行セシムル時ハ此限ニアラス

前項ノ者ニシテ糧食ヲ官給セサル時ハ日當トシテ一日一名金二十錢ヲ給

ス

第十條 職工ノ解雇ハ官ニ於テ内地ニ送還シ特ニ指定スルモノハ外上陸ノ

地ニ於テ之ヲ解雇ス

但使用濟トナリ若クハ疾病傷痍ニ依リテ解雇シタルモノハ雇上地迄送還

ス其費用ハ前條ニ同シ

前項ノ者上陸地ニ於テ檢疫ヲ必要トスル時ハ檢疫ヲ了リタル後又ハ病毒

潜伏ノ恐レアルモノハ若干日間停留セシメタル後解雇ス

第十一條 疾病ニ罹リタルモノハ治療諸費海外ニアリテハ官給トス内地ニ

アリテハ一等症ニ限リ官給トス解雇後ト雖モ送還中傳染病ニ罹ルモノ

ハ陸軍病院ニ收容シ其全癒ヲ認テ退院セシム其入院中ノ治療費ハ官給ト

シ食料ハ自辨トス右ノ場合ニ於テ給料ハ一日一名金二十五錢トス

第十二條 職工ハ請負人ノ負擔ヲ以テ指命ノ時日内ニ左記ノ物品ヲ調辦著

裝セシムヘシ其期節ヲ異ニシ或ハ破損等ノタメ交換ヲ要スルカ若クハ防

寒ノタメ特別ノ被服追送ヲ要スルトキハ請負人ハ其追送方ヲ(命令官廳)

ヘ出願シ其指揮ヲ請フコトヲ得

一 淺黃木綿法被(軍役 ト記ス)

一 同上股引

一 脚絆

一 笠(白布ヲ以テ覆ヒ前面ニ

一 淺黃木綿脊負袋(軍役 ト記ス)

一 雨具

一 食器(飯行李ノ類)ニ食分入

一 木碗

一 水吞

一 草鞋

但草鞋ハ出發後歸著ノ日迄之ヲ官給スルコトアルヘシ

右ノ物品破滅又ハ季節變更ノタメ交換スル場合ニ於テハ之ヲ補給ス

ルハ請負人ノ負擔トス

第十三條 請負人ハ職工ノ派遣地ニ至リ請負人タルノ義務ヲ履行スヘシ但

自ラ出張先キニ赴カサルトキハ豫メ出張先ニ於ケル代理人ヲ定メ連署ノ

上届出又請負人自ラ出張スルトキハ留守代理人ヲ定メ其委任條件ヲ記載

シ連署ノ上届出置クヘシ

第十四條 請負人ハ前各條ノ外職工ノ身上ニ係ル規定及時々ノ命令指圖ニ

履行シ特ニ職工取締ノ責任ヲ全フシ又職工ヲ解雇シタルトキハ必ス之ヲ

引取ルヘシ

第十五條 請負人ハ其請負タル職工一日一人ニ付被服其他ノ諸費ニ要スル

金額ハ各自給料ノ内ニテ内地ハ六錢海外ハ十二錢以上ヲ引キ去ルコトヲ

得ス

第十六條 請負人ハ命令書第三條ノ損害賠償同第四條ノ損害賠償其他ニ充

ツルタメ契約保證金トシテ左ノ金額ヲ(命令官廳)ニ納付シ置クヘシ

金

但

契約保證金ヲ公債證書ニテ納メントスルトキハ其利付公債證書ハ(命令

官)ニ書入レト爲スヘシ其價格ハ額面ニ依ル但此保證金ハ明治二十六年

九月大藏省令第二十號保管物取扱規程ニ依リ保管證書ヲ以テ納付スヘシ

第十七條 契約保管金ハ募集請負ノ職工等其全員ノ解雇トナリ又ハ其他ノ

事故ニ因リ本契約ノ消滅ニ歸セサル内ハ假令何等ノ事由アルモ之ヲ還付ス

第十八條 契約保證金ノ内ニテ命令書第三條及第四條ノ損害賠償並ニ辨償金ヲ償却スルニ當リ其保證金ニテ不足スルトキハ之ヲ追徴シ殘餘アルトキハ第十七條ニ基キ之ヲ還付ス

第十九條 請負人ハ假令何等ノ事由アルモ請負人ニ於テ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

印紙 軍役人夫(職工又ハ何々)請負御請書

今般第(何)團(何々)軍役人夫(職工何々)何名募集請負被命候ニ付別紙御命令書並ニ心得書ノ各條項堅ク相守聊カモ違背不仕候此段保證人連署ノ上御請書差出候也

何府縣何市(區)(郡)(町)何番地
請負人 氏 名(印)
同 同 同
保證人 氏 名(印)

何年何月何日
(命令官タル)職姓名殿
十號

檢視調書

陸軍一等軍吏 荻谷西之助

明治二十八年五月十七日午前四時五十九分山陽鐵道尾道驛ニ著スヘキ下リ一番列車午前五時過ニ著驛シタリ因テ檢疫ノ爲メニ出張シ居タルニ中等列車第五號中ニ前記ノ者軍刀ヲ以テ咽喉部ヲ傷ケ居ヲ發見シタル旨巡查士尾秀太郎ヨリ急報セリ因テ本職ハ檢視ノ爲メ尾道停車場ニ出張醫師宇野武ヲ招キ檢案治療セシメタリ而シテ創傷其他ノ模様ハ左ノ如シ
一創傷ノ部分ハ頸部喉頭ノ左側ニ長九分幅五分ノ刺傷一箇所アリ血液流出呼吸創口ヨリ漏ル

一左ノ拇指掌ノ方面ニ擦過傷アリ長五分幅二分
一頸部ノ四邊面部胸部及軍服ノ襟胸間袖等ハ外套ト上衣トニ論ナク血痕ニ汚染セリ此ノ他傷痕及ヒ異狀ナシ

一發見ノ顛末ハ巡查士屋秀太郎田川葛平ノ兩名列車檢疫中一人ノ乘客中等室ヨリ田川巡查ヲ招キ同室内ニ吐血ノ病人アリ救護相成タシト申告セシニ依リ同巡查ハ室ニ入り見受ケルニ吐血ニアラスシテ其佩スル處ノ軍刀ニテ喉頭ヲ刺シタルナリシヲ以テ土屋巡查ハ本職ニ急報シ田川巡查ハ救護ニ著手セリ本職ハ神速駈付停車場荷物取扱室ニテ檢視シ且治療セシメ終テ之ヲ旅宿營業人土生半七ヘ運ヒタリ

但シ佩スル處ノ刀身ハ血痕ニ汚レ且稍屈曲セリ
一同車室ニアリシ乘客ヲ取調フルニ廣島縣鹽田郡有磨村字上有地平民農當時同縣縣會議員河村大吉ナルモノニシテ京阪ヨリ歸村ノ爲メ昨夜八時神戶驛ヨリ乗車セリ此時ハ已ニ荻谷軍吏ハ乗車シ居タリ猶他ニ三名ノ同客アリタリ車中ニテハ他ノモノハ種々談話シタレトモ荻谷軍吏ハ一言モ發セサリ而シテ他ノ乘客ハ鴨方驛迄ニテ下車シ盡シテ餘ハ荻谷軍吏ト

河村大吉ト二人ノミトナレリ汽車ハ漸ク走テ空闊ノ隘道ニ來リシ此時ガ非常ニ車中ニ滿タリ河村ハ其困難ヲ歎チタルニ荻谷軍吏ハ始メテ發言セリ曰ク此處ハ備中備後ノ國境ニ接セルカ曰ク然リ曰ク最早拂曉ニ近ツキマシタナリ曰ク左様デスト是ヨリ亦一語ノ問答モナク而シテ河村ハ睡魔頻リニ襲フヲ以テ福山驛ニ來ラサル前已ニ就眠セリ暫クシテ一響高ク轟ケリ河村ハ夢ヲ破ラレタリ起テ車窓ヨリ望メハ將ニ沼隈郡今津村ヲ馳スル時ニシテ一響ハ蓋シ今津川ノ鐵橋ヲ過レルナリ因テ其尾道驛ニ近ツキシヲ知リ身仕度ニ取掛レリ但シ河村ハ尾道驛ニテ下車スルモノナレハナリ其身仕度中懷中セシ銅貨入紛失セシニ依リ室内ヲ探ル内同室内ノ荻谷軍吏ハ吐血シ病苦ニ惱ムヲ認メリ著驛ノ上巡查ニ報告シタルモノニシテ巡查カ其刃傷ナルコトヲ發見スル迄ハ毫モ自殺ナリシヲ知ラス信ニ吐血ノ病者ト信シ其汚氣ヲ吸收センコトヲ恐レ可成之ヲ避ケ居リタリト陳述セリ荻谷軍吏カ自殺前ノ舉止如何ヲ聞ニ更ニ怪シキコトナカリシト云フ

一荻谷軍吏ハ出血多量ニシテ容體重ク談話スルヲ得サルモ本職カ如何ナル譯ニテ負傷セシヤト問ニ對シ僅カニ死度ナリタカラ自殺ヲ企テシト答フルノ外何事モ發言セス唯字品貨物支廠長野間拓宛陸軍省經理局長代理内海春震ヨリ發シタル二通ノ書翰ヲ直チニ郵送シ吳レト申シタル迄ナリ以上ノ事實ニシテ荻谷軍吏ハ其自殺ノ原因ヲ明言セサルヲ以テ之ヲ知ルニ由ナキモ必ス何事カ其因アツテ精神ヲ刺激シタルモノアリ茲ニ遂ニ此ノ舉ニ及ヒタルモノト信ス因テ他ノ兇行ニ出タルモノニハ無之ヲ確認シ茲ニ檢視處ヲ終結シ此調書ヲ作ルモノ也

明治二十八年五月十七日

於廣島縣御調郡尾道町字東御所山陽鐵道尾道驛停車場内

廣島縣尾道警察署在勤

警部 丹羽武作

診斷書

明治二十八年五月十七日午前六時尾道警察署土屋巡查ノ急報ニ接シ現場即チ尾道停車場ニ出張シ傷者陸軍一等軍吏荻谷西之助ノ傷部ヲ診査シ創部ニ治療ヲ施シタリ

東京市赤坂區丹後町三十五番地

陸軍一等軍吏 荻谷西之助

四十七年

一凡兆候

患者ハ停車場ノ一室ニ於テ蒲團ノ上ニ軍服ヲ著シタル儘仰臥ニ前胸壁上部ノ一部ヲ暴露シ前頸部ノ中央部ニ於テ創傷アルヲ認ム顔面頸部胸部手部ハ新鮮或ハ凝血ヲ附著シ衣服ノ襟部胸部袖部下半部ハ血液ヲ以テ浸潤或ハ凝血ヲ附著ス手部凝血除去ノ際左拇指頭ニ於テ又一箇ノ創傷ヲ認ム眼目ハ時々閉シ脈搏九十六次細小ナルモ尙力アリ體温三十五度五分創部ニ於テ呼吸ノ際一種音ヲ聽取ス即チ創傷ノ氣道ニ通シタルニ由ル藥液ノ嚥下ヲナサシムルニ嚥下スルコトヲ得異狀ナシ

局處ノ兆候

一 前頸中部左甲狀軟骨部ニ於テ長九分幅五分ノ刺傷アリテ創口ノ方向右
下ヨリ右上方ニ向ヒ上創角部ニ箇二分岐セリ之レ刃ニ對セシ分ナラン
創縁銳ク微出血アリテ呼吸器ノ際空氣ヲ漏ラス消息子ヲ送入スルニ喉
頭内ニ達スルノ他深部ノ創況ヲ知ルコトヲ得ス恐ク藥液嚥下ノ模様ヨ
リ考フルトキハ食道ニハ達シ居ラサルモノ、如シ頂部ヲ除クノ外頸部
一凡左鎖骨下ニ於テ輕度ノ氣腫アリ
二 左梅指第一節掌面ニ於テ長サ五分幅二分ノ皮膚剝創アリテ出血ヲ見ル
頸部刺傷ノ際傍生シタルモノナラン

頸部ハ尤モ自殺者ノ好ニテ自傷ヲ企ツル處ニシテ且創縁ノ方向ト他ニ他傷
ト認ムヘキ兆ナキヲ以テ自傷ト思考ス
自傷ニ用ヒタル刀

自家帶フル處ノ軍刀ニシテ刀尖微ニ缺損シ中部ハ側面ニ沿フテ弓狀ニ彎曲
シ把柄部ヲ除クノ他血液ヲ附著セリ使用ノ際ハ自家ノ短衣ヲ刀身ニ卷キ該
部ヲ握リタルモノ、如シ

豫後

患部ハ少ナルモ多量ノ出血ヲナシ心力衰ヘタルト創部近圍ニ氣腫ヲ已發生
シ居ル等ノ點ヨリスルトキハ其豫後ハ甚タ疑ハシ幸ニシテ心力恢復危
險ノ傍發症ナク平滑ノ經過ヲ取ルトキハ三週日ニ治愈ニ至ルナラン

治療

患部ニ通規ノ防腐繃帶ヲ施シ與奮劑ヲ投シ胸脚ニ芥子巴布ヲ貼シ旅宿ニ移
シ身體ヲ安靜ニシ温包セシメタリ
右之通診斷候也
明治二十八年五月十七日

尾道町

醫士 宇野 武

〔佐脇書記官朗讀〕

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

日本速記術創始者田鎖綱紀二年金ヲ賜フヘキ建議案

提出者 早川 龍介君

開港法案

提出者

須藤時一郎君 田口卯吉君
丸尾文六君 鈴木充美君
菊池九郎君 井上角五郎君

明治二十三年法律第五十號民事訴訟法施行條例中削除法律案

提出者

草刈親明君 平田篤君
關信之介君 中島又五郎君

特別委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ

日本勸業銀行法案審查特別委員長

同理事

外國語學校設立ノ建議案審查特別委員長

石田貫之助君
新井 毫君
柏田 盛文君

同理事
特別委員長左ノ通り指名セリ
郡制改正法律案審查特別委員

源 晟君 佐治 幸平君
森本 莊三郎君 佐藤 忠望君
武市 彰一君 橋本 久太郎君
西村 眞太郎君 紫藤 寛治君
藤田 達芳君 吉本 榮吉君
谷澤 龍藏君 德増 源太郎君

○議長(楠本正隆君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、第一ニ請暇ノ件ニ就イテ決議
ヲ要シマス、末廣重恭君病氣ニ附キ更ニ三週間ノ請暇——君塚省三君病氣ニ
附キ二週間ノ請暇、次ハ關戸覺藏君故障ニ附キ二週間ノ請暇、太田孫次右衛
門君病氣ニ附キ二週間ノ請暇、孰モ御承認ヲ請ヒマス
〔異議ナシ異議ナシ〕ノ聲起ル

○議長(楠本正隆君) 是ヨリ議事日程第一甲ノ部ニ於テ、明治二十八年年度ノ
歳入歳出總豫算追加案、該案ヲ會議ニ付シマス

第一(甲)明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加案

(豫算案ハ浩瀚ナルヲ以テ茲ニ之ヲ掲載セス)

○星亨君(八番) 豫算委員會ノ報道ヲ……
○議長(楠本正隆君) 星亨君
(星亨君演壇ニ登ル)

○星亨君(八番) 諸君、今日ハ本日ノ議事日程ニ上ツテ居リマス追加總豫算
ニ就イテ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報道致シマス、デ明治二十九年年度ノ總豫
算其他ノ豫算ハ昨日ヲ以テ議了致シマシタカラ、既ニ議長ノ手許マデ差出シ
テゴザイマス、而シテ其委員會ノ結果——經過並ニ結果ハ何レ後ニ、即チ後
日ニ御報道致ス積デアリマス、今日ハ今申シタ如ク唯二十八年度ノ追加豫算
ニ就イテ御報道致スノデアリマス、二十八年度ノ追加豫算ハ委員會ヲ開キマ
シテ以來、二十一日マデニ政府ヨリ受取タノハ即チ甲、乙、丙、丁追加總
豫算ニ就イテハ甲、乙、丙、丁ノ四ツゴザイマス、ソレカラ特別會計追加豫算
ニ就イテハ甲、乙ノ二ツデゴザイマス、尙ホ別ニ國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲナス議案ト云フモノガ一ツゴザイマス、先ツ其中ニ於キマシテ既ニ
甲、乙、丙ノ三ハ過日十上ハ日ニ既ニ御報道致シマシタ、是ハ可決ニナツテ
居リマス、デ、サウシテ甲、乙、丁ト云フノガマダ今日御報道致ス部分デ
ゴザイマス、デ甲、乙追加總豫算ノ甲ト云フモノト、ソレカラ特別會計ノ
甲、ソレカラ又追加總豫算ノ丁ト云フモノ、中デ、甲ハ——甲ト丙ハ二十日
ニ委員會ニ於テハ議了致シマシタノデゴザイマス、獨リ乙ハ二十二日ニ議了
致シマシタ、尙ホ特別會計ノ中ノ甲ハ是亦二十日ニ議了致シマシタ、乙ハ二
十二日ニ議了致シタノデゴザイマス、サウシテ各兩方ノ乙ガ遅クナリマシタ
ノハ、政府ヨリ修正ガゴザイマシタリ、又ハ委員會ニ於テ彼是ト連續ヲ致シ
マシテ、一ツヲ議シテ他ヲ議サナケレバ完全致サナイヤウニナツテ居マシタ

故ニ、主査會ニ於テ之ヲ報道スルニ、此會ハ早ク報道シ、他ノ會ハ遅ク致シ
タガタメニ、二十日ニ議スルコトガ出來ナクテ、遂ニ二十二日ニ議スルコ
トニナリタリデアリマス、唯今申シマシタノガ即チ追加總算特別會計ヲ議
了致シタル手續デゴザイマス、次ニ修正ノ部分ト原案通りニ可決致シタモ
ノガゴザイマス、ソレハ今日一々申上ゲナイデモ、既ニ諸君ノ御手許ニ廻リテ居
ル書類ニ於テ御分リニナッテ居ルコト、考ヘマスカラ、別ニ御報道致シマセ
ヌ、唯御注意マデニ御報道ヲ致シテ置カケレバナラヌカト思フノハ、此乙
ノ部即チ二十二日ニ結了致シマシタ乙ノ分デゴザイマス、乙ノ追加總算
ト特別會計ト兩方デゴザイマスガ、其中ニ此朱直シタモノト墨デ直シタモ
ノガゴザイマス、墨デ直シタモノハ政府自ラガ修正ヲ致シタノデゴ
ザイマス、朱デ直シタモノハ申スマデモナク委員會ニ於テ、修正致シタノデゴ
ザイマス、サウシテ尙ホ此乙ノ特別會計ノ中ノ八王子——元トハ神奈川、名
古屋間ノ鐵道ト云フヲ八王子、名古屋間ト修正致シタノデアリマス、是ハ未ダ
八王子、神奈川間ト云フ法律ガ出テ居リマセヌノデアリマス、此法律ニ依
レバ八王子、名古屋間ト云フ法律ニナッテ居リマセヌノデアリマス、然ルニ政府
ニ於テハ法律案ハ提出シテゴザイマスルケレドモ、未ダ法律トシテ成立ッテ
居ラヌ、即チ神奈川名古屋間ト云フモノニ對シテ豫算ヲ持ッテ參ツタノデゴ
ザイマス、而シテ委員會ニ於テハ未ダ法律ガ成立タナイモノニ向ッテ豫算ヲ
決議スルコトハ其當ヲ得ナイト考ヘマシタ故ニ、即チ八王子、名古屋間ノ既
ニ法律トシテ成立ッテ居ル部分ニ向ッテハ豫算ヲ可決致シマシタガ、未ダ成
立タザル所ノ神奈川、八王子間ニ對シテハ其分ニ代ハルダケノ豫算ノ金額ハ
コ、ニ削減シマシタノデ、從ッテ此繼續費——即チ繼續費ハ皆サウ云フコト
ニナッテ居リマスカラシテ削減ニナリマスノデアリマス、併ナガラ其削減ニ
ナリマスノハ一番仕舞ニ於テ此神奈川、八王子間ニ對スルダケノモノヲ削除
致シマシタ、サウシテ尙ホ其他ノ鐵道ニ對シテハ一年度線上ゲルコトニナッ
テ居ルノデゴザイマス、サウシテソレハ政府ニ於テ修正ニナッテ居リマスル
ノデゴザイマスガ、念ノタメ一年度線上ッテ居ルト云フコトヲ諸君ニ御報
道致シテ置キマス、ソレカラ國庫ノ義務ニ屬スル——負擔ニ屬スル契約ト云
フコトニ就イテハ別ニ異論モナク可決致シマシタ、尙修正ノナイ所ハ原案通
リ可決致シマシタ、此段御報道致シマス

○議長(楠本正隆君) 日程ノ第一ハ委員會ノ修正案ヲ以テ朗讀ヲ省略シ、一
括ヲ致シテ議題ニ供シマス

○松田吉三郎君(八十二番) 今委員長ノ報告ニナリマシタ中ニ——此報告書
ノ中ニ消シ損ヒガアリマスカラ訂正ヲ致シマス、特別會計ノ方デゴザイマス、
明治三十七年度、此以下ハ朱消シテアリマスケレドモ、是ハ墨デ消ス譯ノ
モノデゴザイマスカラ此段訂正致シマス

○議長(楠本正隆君) 該案ニハ別ニ御質問モナシ、御異議ガナイト認メマス
ガ、免ニ角決議ヲ採リマスル、該案全部ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 大多數——次ハ日程ノ第二、二十八年年度歳入歳出總算
追加案ノ乙ノ部ヲ、前例ニ從ヒマシテ朗讀ヲ省イテ全部ヲ議題ニ供シマス

第二 (乙)明治二十八年年度歳入歳出總算追加案
(豫算案ハ浩瀚ナルヲ以テ茲ニ之ヲ掲載セス)

○議長(楠本正隆君) 該案モ亦御動議ガナイト認メマス、御動議ナケレバ全
部ヲ可定ト認メマス——次ハ、第三、丁ノ部ニシテ追加案ヲ、委員會ノ修正
モアリマセヌニ依ッテ原案ヲ一括シテ同ジク議題ニ供シマス

第三 (丁)明治二十八年年度歳入歳出總算追加案
(豫算案ハ浩瀚ナルヲ以テ茲ニ之ヲ掲載セス)

○久保九兵衛君(八十五番) 議長

○議長(楠本正隆君) 久保君ハ通告ニナッテ居リマスガ、該案ニハ反對モア
リマセヌ、反對ガナクシテ唯贊成ノミ御通告ニナッテ居リマスガ、御登壇ナ
サイマスガ

○久保九兵衛君(八十五番) ソレデハ止メマス

(「異議ナシ」異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 然ラバ該案モ御動議ナキヲ以テ可定ト認メマス、——次
ニ第四、甲ノ部、同ジク全部ヲ以テ議題ニ供シマス

第四 (甲)明治二十八年年度各特別會計歳入歳出豫算追加案
(豫算案ハ浩瀚ナルヲ以テ茲ニ之ヲ掲載セス)

○議長(楠本正隆君) 該案モ亦御動議ナキヲ以テ可定ト認メマス

(「異議ナシ」異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 次ハ第五、乙ノ部ヲ一括シテ同ジク議題ニ供シマス

第五 (乙)明治二十八年年度特別會計歳入歳出豫算追加案
(豫算案ハ浩瀚ナルヲ以テ茲ニ之ヲ掲載セス)

○議長(楠本正隆君) 政府委員鈴木君

○政府委員(男爵鈴木大亮君) 遞信省所管ノ第一款、鐵道建設費ノ中デゴザ
リマスガ、第三項ニ神奈川、名古屋間鐵道トゴザリマスノヲ八王子、名古屋
間鐵道ト修正ニナッテ居リマスルノデゴザリマス、是ハ既ニ此線路ニ對シマ
シテ鐵道敷設法ノ改正法案ヲ提出シテゴザリマス、其法案ハ現今特別委員
付託ニナッテ居リマス、其法案ガ通過致シマスルト矢張原案ノ如ク神奈川、
名古屋間鐵道ト云フコトニナリマスルノデゴザリマス、ソレデ今之ヲ八王子、
名古屋間ト修正ニナッテ居リマシテ、此敷設法ノ改正法案ガ通過シマスルト、
事實撞著致スコトニナルノデアリマス、就キマシテハ矢張神奈川、名古屋間
鐵道ト原案ノ如ク致シテ置ク方ガ事實上宜カラウト存シマス、就キマシテハ
ドウカ此原案ノ復活致スコトヲ希望致シマス

(「査定案」通過ノ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 委員ノ修正ノ動議ニ全部御異議ナシト認メマス、次ハ
第六、是レ亦全部ヲ議題ニ供シマス

第六 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

(豫算案ハ浩瀚ナルヲ以テ茲ニ之ヲ掲載セス)

○議長(楠本正隆君) 御動議ナキヲ以テ是レ亦可決ト認メマス——次ハ第七、市町村立小學校教員ニ關スル法案、朗讀ヲ省略シマス

第七 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法案 第一讀會

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法

- 第一條 市町村立尋常小學校及高等小學校ノ正教員及准教員ニシテ五箇年以上同一學校ニ勤務スル者ニハ國庫ヨリ年功加俸ヲ給ス
- 第二條 年功加俸ハ五箇年勤續シタル者ニ本俸ノ百分ノ十五ヲ給シ後五箇年ヲ加フル毎ニ更ニ百分ノ十ヲ加ヘ百分ノ三十五ニ至リテ止ム
- 第三條 此ノ法律施行前ヨリ勤續スル者ニ對シテハ明治二十三年勅令第二百十五號小學校令發布後ニ於ケル勤務ノ月ヨリ其ノ勤續年數ヲ起算ス
- 第四條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令施行前又ハ同令ヲ施行セサル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ此ノ法律ニ於ケル正教員トシ其ノ授業生及授業生ノ資格アル學校長ハ此ノ法律ニ於ケル准教員トス
- 第五條 學校ノ廢止ニ因リ他ノ學校ニ轉任シ又ハ同一ノ事由ニ因リ退職シタル後三十日以内ニ他ノ學校ニ就職シタル者ハ仍勤續ノ例ニ依ル
- 第六條 兵役ニ服スル者其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後更ニ同一ノ學校ニ再任スルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤續年數ニ通算ス
- 第七條 年功加俸ハ明治二十三年法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ規定シタル諸給與及納金ノ關係ニ於テ本俸ニ加算ス
- 第八條 市町村、町村學校組合及區ノ寄附又ハ其ノ他ノ名義ヲ用非實際ノ支給額ヲ本俸額ヨリ低減スルコトヲ得ス但勅令又ハ省令ノ規定ニ依ルモ此ノ限ニアラス
- 第九條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第十條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

○星亨君(八番) 一寸……前ノ案ハ既ニ確定議ト認メテ宜シウゴザイマス

○議長(楠本正隆君) 全ク確定議デゴザイマス

○文部大臣(侯爵西園寺公望君) 議長

○議長(楠本正隆君) 文部大臣侯爵西園寺公望君

○議長(楠本正隆君) 文部大臣侯爵西園寺公望君

○文部大臣(侯爵西園寺公望君) 諸君、小學校教員ニ年功ニ依リ加俸ヲ給スルト云フコトノ法案ハ、既ニ第五回帝國議會ニ提出ニ相成ツテ居マシタモノデアリマスガ、不幸ニシテ當時議會解散ノタメニ議決ニ至ラズシテ止ミマシテゴザイマス、此法案ハ當時ノ當局者ガ深ク實際ニ鑑ミテ立案致シタモノデアリマシテ、今日ニ於テ最モ其必要ヲ感シテ居ルノデアリマス、小學校教員ノ數ハ、正教員ガ三万七千五百人程アリマスクレドモ、之ヲ全國ノ小學學

級ニ配ツテ視マスルト、尙ホ二万人ノ不足ヲ告ゲテ居ルデゴザイマス、然ルニ實際今日ニアツテハ、多クノ青年ハ教員ト爲ルコトヲ餘リ好マスト云フ傾ガアリマス、又舊來ヨリ既ニ教員ト爲ツテ居ルモノモ、或ハ時機ヲ得テ他ノ職業ニ轉ゼンコトヲ希望シテ居ル者モ澤山アリマス、之ヲ過去ノ事實ニ徴シテ見マスルト、正教員ニシテ五六箇年間モ同一學校ニ勤續シテ居タト云フ者ハ、總數ノ三分ノ一ニモ及バズト云フ位ノモノデゴザイマス、斯ノ如キ有様デアリマスカラ、今日ニアツテ是ガ矯正ノ途ヲ講ズルコトハ最モ急務デアルト信ジマス、要スルニ此法案ハ小學校教員ノ地位ヲ固クシテ、是等ノ教員ヲシテ長ク同一學校ニ在ラシメント欲スルモノデアリマス、即チ小學校教員ヲ優待シテ、國家ガ小學教育ニ重キヲ置クノ實ヲ示サント欲スルニ過ギヌノデアリマス、此法案ト第五回議會ニ提出ニナリマシタ所ノ法案ト比較シテ見マスルト、此法案ニアツテハ、年功ニ依リ給スベキ加俸ノ起算點ガ違フテ居リマスノガ一ツ、ソレカラ現法案ニアツテハ、月額二十五圓以上ニ當ル所ノ俸給ヲ取ツテ居ル教員ニハ加俸ヲ給セヌト云フノ制度デアリマシタヲ改メマシタノガ一ツ、重ナル點ノ相違ハ此二點デゴザイマス、此法案ハ第五回帝國議會ニ提出致シマシタ以來、世間デモ往々問題ニナツテ居ル法案デゴザイマシテ、又教育社會ニ於テハ最モ渴望サレテ居ル法案ト考ヘマス、諸君ニモ既ニ御熟知ノ法案デアルト存ジマス、速ニ可決ニナリマシテ、議場ヲ通過セラレンコトヲ冀ヒマス

○漆間民夫君(二百十七番) 質問致シマスガ、此法案ヲ施行スルニハ、勅令二百十五號小學校令發布ニ於ケル勤續ノ時カラ起算スルト云フノハ、ドウ云フ譯ナノデゴザイマス、ソレヲ一ツ伺ヒマス、其次ニ至リマシテ、五條ニハ學校ノ廢止ニ依リ他ノ學校ニ轉任シ、其下ニ又ハ同一ノ事由ニ依ルトアリマスガ、同一ノ事由ト云フノハ、學校ガ變更ニデモナリマシタ場合ヲ指シマスルカ、將又震災等ノタメニ已ムナク一時休校ヲ爲スト云フ場合ヲ指シマデアリマス、ソレヲ一ツ御聞キ申シタイ、次ニ第七條ニ參リマシテ、此諸給與及納金ノ關係ニ於テ本俸ニ加算ス、納金ノ關係ニ於テ本俸ニ加算スト云フノハ、是ハドウ云フコトヲ言フタノデゴザイマス、法律九十號ヲ調ベマシレバ分カルコトデアリマセウガ、ソレヲ一ツ御辯明ヲ願ヒタイ、右御尋致シタダケノ御答辯ヲ願ヒマス

(政府委員文部省普通學務局長木場貞長君演壇ニ登ル)

○政府委員(木場貞長君) 唯今ノ御尋ニ御答致シマス、明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ハ則チ現行小學校令デゴザイマス、十月ノ七日ニ發布ニナツテ居リマスガ、即チ二十三年ノ十月後ニ於ケル勤務ニ附キマシテ起算致シマスコトヲ至當ト考ヘマス、ソレヲ一ツ御聞キ申シタイ、ト申シマスルノハ、此前ノ議案、即チ第五議會ニ提出ニナリマシタ法案ニハ、明治十九年ノ舊小學校令ノ實施後カラ起算スルコトニ致シテゴザイマシタ、多分御尋ノ點ハ此相違ノ事デアラウト思ヒマスガ、第五議會ニ法案ヲ提出致シマシタ時分ニハ丁度二十七年四月カラ法案ヲ施行スル見込デゴザイマシタカラ、現行ノ小學校令發布ノ時ヨリ起算シマシテハ、此法ノ恩典ニ浴スルモノガ一人モナイ場合デアッタノデス、今日ニ至リマシテ、若シ舊小學校令カラ算ヘテ參リマスルト、早ヤ十年ニ達シテ居ルモノガ出來マスル、十年ニ達シマシタモノニハ、

二割五分ノ増俸ヲ與ヘルト云フコトニナリマスガ、ソレデハ餘リ結構過ギル
ト云フヤウナ考デゴザイマシタ、是迄ノ所デハ、轉任ノ致シマシテ、或ル意
味ニ俸給ニ變更ヲシテ參リマス、餘リ長ラク増額ガナケレバ他ノ學校等ニ轉
任ヲ致シマシテ、自ラ増給ニナツテ居リマスカラ、十年以上勤續ニナツテ居
ルカラト申シテ、二割五分ノ増給ト云フコトハ餘リ結構過ギル、旁々現行小
學校令ノ發布ノ時ヲ起算點ニ致シマシタ、ソレカラ五條ノ同一ノ事由ニ依ル
ト申シマスルノハ、學校廢止ニ依リト云フノ略シタ積デゴザイマス、學校ノ
廢止ニナリマシタトキニハ、他ノ學校ニ都合宜ク轉任ガ出來レバ宜シウゴザ
リマスガ、暫ノ間ハ遊デ居ラナケレバナラヌコトガ往々ゴザイマス、ソレデ
三十日位ノ間ニ他ノ學校ニ轉任スルコトガ出來レバ尙勤續者トスルト、是ダ
ケノコトデゴザイマス、ソレカラ七條ノ年功加俸ハ、明治二十三年法律第九
十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ規定シタル諸給與及納金
ノ關係ニ於テ本俸ニ加算スト申シマスルノハ、此國庫カラ下付ニナル所ノ加
俸ト申スモノハ、當リ前ノ俸給ト見ルカ、ソレトモ俸給ノ内デハ種類違デア
リ附加デアルカラ、退隱等ノ時ハ計算シナイカト云フ問題ガ起リマス、ソレ
デ退隱料ヲ與フル時デモ扶助料ヲ與フル時デモ、矢張本俸即チ市町村カラ出
シマスル所ノ本俸ト、國庫カラ出マスル加俸ト合計シタモノヲ其人ノ俸給ト
見ル積リ、從ツテ今日ノ制度デハ、各教員並ニ市町村ガ俸給額百分ノ一ヲ納メ
ルコトニナツテ居リマス、恩給基金ヘ百分ノ一ヲ本人ガ納メル場合ニハ、市町
村カラ受クル俸給ダケデナク、國庫カラ加俸トシテ受ケルモノニ對シテモ拂
ハナケレバナラヌ、市町村モ亦然リト斯ウ云フノデアリマス、特種ノモノト
見ナイト云フ積リデゴザイマス

○漆間民夫君(二百十七番) 今一ツ御尋シタイノハ、此法律ニ依リマス外ニ、
例ヘバ今年間モ勤續致シマシテ、今三箇月ニナリマスレバ、十年間ト云フ
コトニナリマス、然ルニ若シ一朝學校ノ勤務ノタメニ病氣、殊ニ癱瘓等ニナ
リマシテ、ソレガタメニツイ十年ニ滿タナイデ退職スルト云フヤウナ場合ニ
至リマスルト、是ハ矢張此法律九十號デゴザイマスルガ、其退隱料ノミニシテ
此年功加俸ニハ恩典ニ與ル譯ニハ參リマセヌノデゴザイマセウカ、ソレカラ
溯ツテ今一ツ御尋シタイノハ、此一條ヲ見マスレバ、五箇年ヲ加ヘル毎ニ更ニ
百分ノ十ヲ加ヘ百分ノ三十五ニ至リテ止ムトアリマスガ、サウスルト、五箇
年毎ニ百分ノ十ヲ加ヘマスレバ、百分ノ三十五トスルト、滿十五箇年デ以テ
三十五ニナルヤウデゴザイマスガ、十五年以上二十年乃至二十五年ト云フ
ヤウナコトニ至リマシテモ、ソレ等ノモノハ別段此年功加俸ノ恩典ヲ爲スベ
キモノデナイト云フ御見込デゴザイマス

○政府委員(木場貞長君) 御答申シマス初ニ御尋ニナリマシタ十年ニ垂ント
シテ退職シタ者ハ、此法律ノ恩典ニ浴スルコトハナイカト云フコトニ就キ
マシテハ、十年ニ垂ントシテ居ルナラバ、此法律ノ恩典ニ浴スル都合デス、
即チ九年何箇月ト云フ人ハ、五年以上ノ部類デアリマスカラ、一割五分ノ加
俸ヲ受ケラレルノデゴザイマス、ソレデハ假ニ十箇月ノ俸給ヲ受ケテ居
ラバ、十一圓五十錢ノ割合デ退隱料ヲ割出シテ貰フ

○漆間民夫君(二百十七番) 御說明中デアリマスガ、ソコノ所ヲ伺ヒタイ、
無論十年ニ垂ントスルノハ、五年以上勤續致シマシタモノニハ、百分ノ十五

ハ支給ニナリマスノハ當然デゴザイマス、ガ併シ、今年ニナラントスルト云
フトキニハ、百分ノ二十五ノ加俸ニナル譯デゴザイマス

○政府委員(木場貞長君) 十年ニ一箇月デモ足リマセヌモノハ、矢張百分ノ
十五ノ割合デゴザイマス

○漆間民夫君(二百十七番) 其邊ヲ伺ヒタイ、此退隱料法ニ依リマスルト、
若シ學校ノ勤務ノタメニ癱瘓等ニナリマスレバ、尙ホ滿十五箇年勤續シタ者
ト同一ノ取扱ニナツテ居リマス、然ルニ此年功加俸ニ依リマスレバ、ソレガ
見エナイカラ此疑ヲ起ス

○政府委員(木場貞長君) 御尋ハ一應御尤ニ伺ヒマスガ、然ルニ癱瘓等ノタ
メニ特別ニ年數ヲ繰上ゲルト云フコトハ、既ニ退隱料法見テゴザイマスカ
ラ、此法案ノ方デハソコマデ往カズトモ宜イト云フ積デス、退隱料法ノ方デ
年數ヲ引上ゲル法ゴザイマスカラ、此方ハ單純ニ俸給ノコトデアリマスカ
ラ、唯俸給ヲ補助スル方法デアリマスカラ、ソコマデニ至ル必要ハナイト云
フ考デアリマス、ソレカラ、モウ一ツ御尋ガゴザイマシタカラ、ソレヲ御答
ヘ申シマセウ、第二條ノ年功加俸ノ割合ハイカサマ十五年デ百分ノ三十五
至リマス、其上ニ加俸ヲ與ヘルト云フコトハ此法案ノ計畫外ニ屬シマス、二
十年ニ十五年、イツマデモ上ゲルト云フコトモ出來マセヌカラ、凡ソ俸給ノ三
十分ノ一強、即チ百分ノ三十五位止マリヲ措ヘナケレバ、イツマデモ鰹登リ
ニ登ルト云フコトモ出來ズ、サレバト云ツテ、餘リ小サク切リ刻デ置キマ
シテモ、此恩典ニ浴スル人ガ餘リ少クナリマスカラ、若シ百分ノ五位ツ、
デハ如何ニモ恩典ガ見エズ、今日ノ市町村小學校教員ノ窮シテ居ルコトヲ不
幸ノ境遇ニアルノヲ救フニ足リマセヌカラ、コ、等ガ至當ト見テ居リマス

○眞下珂十郎君(二百四十一番) 本員モ質問ガ致シタイ、唯今モ御問ニナリ
マシタガ、第二條ノ十五年ヲ五年ト上ボル、サウシテ十五年タデバ其他
ニハ及バヌト云フノハ、ドウ云フ御精神デアアルカト云フコトヲ承リタイ、モ
ウ一ツハ此支出ノ全額ハドノ位ニナルト云フコトヲ承知致シタウゴザイマ
ス、過刻文部大臣ノ御演說中、教員ノ數ガ三萬三千何百人ト仰セラレマシタ
ガ、自分等ガ一寸シタ統計ニ依ツテ見マスレバ、二十年ハ六萬三千三百三十
四人、二十五年ニハ六萬七千六百八十八人ト云フコトニナリマシテ、差引四
千四百五十四人増シテ居ルト云フコトニナツテ居リマスガ、是ニハ又他ノ專
門學校デゴザイマスツカ、高等女學校デゴザイマスツカ、種々ナ教員ヲ持ッ
テ居ルト考ヘマスカラ、大低分ツテ居リマスガ、増シテ居ルト云フコトハ何
分カ事實ノ上ニ於テ明カデアアルニ違ヒナイト考ヘマスガ、御考ノ所ヲ一ツ承
リタイ

○政府委員(木場貞長君) 第二條ノハ今申上ゲタ積デアリマスガ、少シク明
白デナカッタノカ知レマセヌノデ、即チ御尋ヲ蒙ル次第カト思ヒマス、今ノ
教員ノ境遇ガ餘程氣ノ毒ナ有様ニ陥ッテ居ルカラ年功加俸ヲ與ヘタイ、而シテ
教員ノ位地ヲ他ノ處ニ求ムルト云フヤウナ弊ヲ絶チタイ、殊ニ貧乏ナル町村
ニ於キマシテハ、進モ資力ノ薄イ所カラ市町村ノ教員ノ俸給ヲ増スト云フコ
トガ出來マセヌ、隨ツテ自ラ轉任ヲ促サユナ、教員自ラ轉任ヲ促サユナ有
様ニ立至リマスカラ、ソレデハ年功ニ依ッテ加俸ヲ給スル、其歩合ハ先ツ教員ヲ
五年モスレバ、是カラ一生教員ニ從事シヤウカ、他ニ業ヲ移サウカト云フ場

合デゴザイマスカラ、一割五分位與ヘタイ、即チ百分ノ十五ト云フコトニシ
タノデゴザイマス、ツレカラ、イツマデモソレ終リマスヤウデハ尙ホ勵ニ
モナリマセヌカラ、更ニ五年ノ後ニハ百分ノ十ヲ加ヘテ、百分ノ三十五ヲ與
ヘ、更ニ又五年過ギマシタレバ百分ノ三十五ヲ與フルヤウニ致シマシタナ
ラバ、教員モ今日ノ暮シヲ先ヅ不自由ナク致スダケハ出來ルデアラウカト
スルノハ、或ハ教員ヲ待遇スル上ニ就キマシテハ宜シイカモ知レマセヌガ、ソ
レダケノ必要モナイト云フ積デ、斯様ニ計畫致シマシテゴザイマス
○眞下珂十郎君(二百四十二番) サウシマスルト四年ニナツテモ宜シイト云
フ……詰リ長ク教員ノ職務ニ從事シマスモノハ……

○政府委員(木場貞長君) 是ハ外ノ恩給法ナリ退隱料杯ニ於キマシテモ皆此
ヤウナ風ニ計畫ヲ致シデアリマス、官吏デモ十五年過グレバ恩給ヲ貰ヘル、
所ガ十六年ノモノニハ二百四十十分ノ一ヲ増シテヤル、十七年ニナツテ居ル
モノニハ二百四十十分ノ二ヲ増シテヤル、此様ニ段々増シテ行キマスルガ、
俸給ノ四分ノ一ヨリ始マリマシテ三分ノ一ニ至ツテ、止ムノデゴザイマス、
二百四十十分ノ一ツ、加ハツテ到頭三分ノ一ニ達シマスルト、モウ其上
ハ増給セヌト斯ウ云フコトニ恩給法杯モナツテ居リマスカラ……

○眞下珂十郎君(二百四十二番) 就イテハ支出ノ總額ハ……
○政府委員(木場貞長君) 是ハ推算致シマシタ所デハ、二十九年年度ハ十月一
日カラ六箇月ノ間實行スルコトニナリマスルカラ九万六千八百七十四圓、是
デ足リマスル推算デゴザイマス、而シテ是ガ段々ト致シテ教員ノ數モ増シテ
參リ、尙ホ又同一ノ學校ニ勤續スル教員ノ割合モ増シテ行クモノト假定シテ
細ニ計算致シマシタ結果、六十六万九千二百二十九圓アレバ其上ニハ増サズニ
濟ムト云フ推算デゴザイマス

○眞下珂十郎君(二百四十二番) 了解致シマシタ
○大田信一君(九十二番) 一應政府委員ニ質問ヲ致シタイコトガアル、此第
一條ニ「正教員及准教員ニシテ五箇年以上同一ノ學校ニ勤續スルモノト云々」
ト云フコトガアリマス、是ハ尤モ此法案ニ就イテハ容易ニ其教員ニ向ツテ加
俸ヲシナイト云フ、即チ重キヲ置イタモノデアラウト云フコトハ本員等モ推
測ヲ致シテ居リマスルガ、此同一ノ學校ト云フコトニ此規則ヲシテ置イタル以
上ハ、或ハ數多ノ教員ノ中ニハ隨分劣劣ナヤツモアツテ、給料云々ノコトニ就
イテ他ニ轉校スルトカ、又何トカト云フヤウナ劣劣ナ手段ノタメニ轉校杯ヲ
スル所ノモノモアルデアリマセウガ、又一步退イテ考ヘテ見ルト云フト、或
ハ普通小學校ノ教員ガ高等學校ニ級ヲ進ムト、又已ムヲ得ザル事故ガアツテ
正當ノ手續ヲ以テ他ニ轉校スルト、斯ウ云フ場合ハ隨分ナイトモ云ハレマイ
ト本員共ハ信ズル、然ルニ單ニ此同一ノ學校ニ勤續スルモノニ限り之ヲ給與ス
ルト云フコトニ縮メテ居ル、其政府ノ精神ヲ一應御尋ヲ致シタイノデアリマ
ス

○政府委員(木場貞長君) 御答致シマスルガ、此法案デハ教員ガ子弟ヲ預ッ
テ教育スルニハ、成ルベク永ク同ジ地ニ留マルガ宜シイ、教員ノ甲ノ學校ヨ
リ乙ノ學校ニ轉ズルヤウナ有様ハ教育上甚ダ憂フベキ事デアアル、就イテハ此
勤クト云フコトハ甲ノ學校カラ乙ノ學校ニ勤クト云フコトノ中ニハ、御話ノ

通りニ極ク正當ニ他カラ見テモ御九千万、却テ其方ガ宜シイト云フヤウナ
轉校モアリマセウデゴザイマセウ、其種類ノ轉校ヲ爲ストキニハ自ラ此加俸
ヲ受ケル權利ヲ犧牲ニシテ、ソレヲ自ラ辭シテ轉校スル都合ニナルノデアリ
マス、例ヘテ申シマスルナラバ、十圓ノ俸給ヲ取ツテ居ルモノガ他ノ學校カ
ラ聘セラレ、ト云フ場合ニハ、他ノ點ハ別ニ置キマシテ俸給ノ點カラ申シマ
スルトキハ、十一圓五十錢ナラバ、是マデノ學校ニ居ルノデアアル、他ノ學校
ノ招聘ニ應ズルニハ十二圓位ニナラナケレバ應ジナイ、十一圓デ應ズルナ
ラ俸給上ニ於テハ寧ロ損ニナルノデアアルト云フ有様ニナリマスルカラ、至當
ノ場合ニハソレダケノ増給ヲ受ケルカ、若クハ増給ヲ受ケズトモ年功加俸ヲ
辭シテモ轉校シタ方ガ都合ガ宜シイト云フ場合デアリマセウカラ、ソレハ差
支ナイ積デゴザイマス、若シ斯様ナ年功加俸ハ同一ノ學校ニ勤務シタモノニ
限り與ヘルト云フコトニ致シマセヌト、法案ノ精神トスル所ノ同一ノ學校ニ
留マルト云フコトノ目的ヲ遂ゲラレヌデゴザイマス

○議長(楠本正隆君) 最早質問モ盡キタリト認メマス、次ハ第八……
○田中正造君(二百九十番) 議長……
○議長(楠本正隆君) 田中正造君、御質問デスカ
○田中正造君(二百九十番) サウデス、本日ハ文部大臣モ幸ヒ御出席デゴザ
イマスカラ、少シ伺ツテ置キタイコトガゴザイマス、私ハ大臣ニ質問スル積
デゴザイマス、別段議論ガマシイコトヲ以テ御質問申スノデハナイ、色ニ國
家ノタメニ深ク御打合せ申サヌケレバナラヌコトガアリマス、一體此教育ノ
事ニ就イテモ、此年代ガアリマスルガ、明治六年ニ始テ教員ヲ置カレマシタ
トキハ、御承知ノ如ク教員モ、此教員ヲ教ヘル所ノ師範學校ノ教師モ年ガ若
シ、縣廳ノ學務課モ年ガ若シ、誠ニ清潔ナル人間ガ仕込シタ、若イ教師ガ新
シイ學校ヘ這入ツテ此生徒ヲ仕立ツタデアアル、故ニ當時ノ小學校ト云フモノ
ハ奇麗ナモノデアアツタ、活潑ナルモノデアアツタ、又法律モ寛デアツテ誠ニ宜
カッタデアアル、其結果ハドウデアアツタカト云フテ見マスルト云フト、昨年
ノ議會ニ於テ諸君モ知ラル、如ク、此日清ノ戰爭ニ就イテ兵隊ノ氣力即チ大
和魂ハ能ク其任務責任ヲ重ズルト云フコトヲ、能ク日本國ノ兵隊ハ足竝ガ
揃ツテ、稍々其中ニ甲乙モゴザイマシテカラガ、先ヅ立派ナル働ヲ爲シタノ
ハ日本ノ軍人デアアル、此兵隊ニ取ツテハ一點ノ批難ヲ容レル所ガナイノデア
アル、デ是ハ色々ノ古ノ國ノ風モアリマセウケレドモ、國體ノ然ラシムル所デ
アリマセウ、固ヨリ 陛下ノ御威德ニ存スルコトハ申サマデモナイ、色々ノ
關係モアリマセウガ、先ヅ能ク知レル所ハ、能ク明カニ著シク見エルノハ小學
校ノ、新シイ小學校ノ、既ニ唯今申上ゲタ通良イ結果ヲ見デ宜シイ、サウナレ
バ、是ヨリ先モ亦小學校ノ生徒モ是マデノヤウナ生徒ガ出來ルカ否ヤト云フ
コト、近年ノ學校ヲ御覽ニナリマシタナラバ、コ、デゴザイマス、其當路者
ニハ非常ニ御心配ヲ蒙ラナケレバナラヌ、デ近年ノ學校ト云フモノハ、自然
ト此縣廳ノ役人ガ年ヲ取ツタデアアル、今ノ政府ノ役人モ年ヲ取ツテ來タ
ガ、從ツテ縣廳ノ役人モ年ヲ取ツテ來タ、郡吏モ年ヲ取ツテ來タ、教員モ年
ヲ取ツテ來タ、法律モ細カクナツテ來タ、一方ニハ衆議院ノ議員ノ選舉ニ干渉
スルト同時ニ、小學校教員ニモ干渉スルト云フ弊ハ、演説ヲ警察官等ガ濫ニ
中止スル弊ト同時ニ、此小學校教員ニモ嚴イコトガ出來テ來テ、此衆議院

議員ノ選舉權ヲ持ツテ居ルモノデアッテモ小學校教員ハ、是ハ大概教員ハ民黨ニ投票スルコトガ出來ナイ位ニナッテ居ル、期様ナシ時勢デ年ヲ取ツタ、學務課モ年ヲ取ツタ、郡役所ノ小學校ヲ能ク巡ッテ歩ク學務課ト云フモノハ、是ハ必ズ學問ガアルカト云フト、學問ガアル譯デナイ、餘リ學問ノナイ人間デ、漸ク月給八圓カラ十圓以下ノ人間ガ、宛ニ角一通リノ教育ヲ受ケタ人間ヲ監督スルノデアル、成程教師ノ進退ヲ司ル、表向キハ宜シイガ、其實ニ於テ手心ト云フモノガ、官尊民卑ノ甚シイ、我邦ニ於テ少シジツ手心ヲヤルト云フト、此財產ノナイ、唯教師ダケノ財產ヲ以テ暮シテ居ル者ガ郡吏ニ惡マレト云フト、己レノ身ノ仕合セヲ得ナイト云フノガ病ニナル、此病ハ何ニナルカト云フト、生徒ニウツリテ來ル、此生徒ノ待遇振ヲ新シ小學校、即チ明治初年ノ教師ト云フモノハ、生徒ノ活潑ナルヲ好シタモノデアル、誠ニ此生徒ノ活潑ガ宜シト云ッテ生徒ガ活潑ナルコトヲ好シタモノデアル、今日ノ教師ヲ見ルト生徒ノ活潑ヲ忌ムノデアル、先ヅ東京ノ學校ヲ見テモサウデアル、頻リニ生徒ニ檢束ヲ與ヘルヤウニシテ、何カ教師ニ無禮ガアルト之ニケンツクヲ與ヘルノガ近來ノ弊デアル、地方ハ皆サウデアル、甚シキハ地方ノ小學校ニ至ルマデ、今日ハ此小學校教員ニ向ッテ生徒ガ何カ質問ヲヤカマシクスルトアイツハイケンナイヤツダト云フ、頭マニ小學校教員ノ頭マガ出來テ居ル、是ハ上ノ好ム所下之ヨリ甚シキハナシデ、斯様ナ譯デハ、其時々刻々政府ノ方デハ穩ナ人間、オトナシイ卑屈ナ人間——卑屈ト云フ言葉ハ穩ナアリマセヌカ知ラヌガ、唯々諾々マニ——ニナッテ居ル人間バカリ製造シタナラバ、天下泰平ノ如ク表面ハ見ユルカハ知リマセヌガ、一朝國ニ事アル時、彼ノ三國トカ何トカ云フ時ニハ、何ヲ以テ之ニ當ラシムル軍人ヲ御作リナサルノデアリマスカ、其邊ハ喋々ヲ要スルマデモナイ、御心ニ掛ケテ居ルデゴザイマセウケレドモ、國ノ元氣ヲ養成スルコト云フコトヲ御目的ニ爲サル教育デアルカ、精神ノ活潑ヲ好ム所ノ御目的ノ教育デアルカ、言葉デ言フト新シイ學者ガ笑ヒマスカ、此大切ナル大和魂ト云フヤウナモノニハ用ガナイト云フ教育ノ御方針デアルカ、又幼年ノ中ヨリ責任ヲ重ンゼシムルト云フコトヲ教育セシムルト云フ目的ノ方針デアルカ、但シ無責任ヲ貴ビ無責任ヲ主張スルコトヲ御教ニナル學校ノ方針デアルカ、併シ無責任ヲ教ヘル學校ハゴザイマセヌカラ、是ハ私ガ失言、或ハ餘事ナコトニ話ガ及ンダデアリマスカ、第一責任ヲ重ズルト云フコトハ小イ時分カラ教ヘテ往カナケレバナラヌ、日本魂、國ノ元氣ト云フモノヲ養フテ往カナイモノニ、俄ニ鐵砲ヲ擔ガセテ此國ノ擴張、此邦ノ前途ニ、外國ニ國威ヲ輝カセルト云フコトハ、口デ言フヤウナコトハ爲シ得ラレルカ得ラレナイカト云フコトハ、實ニ今日ノ小學ニ於テ大切ナコトデゴザイマスカ、ソレニ就イテ大臣ハ先ヅ其國ノ元氣ヲ養成スルト云フヤウナコト、日本魂ト云フヤウナコトニハ用ガナイト云フヤウナ御方針デゴザルヤ否ヤ、先ヅ其大ナル所ニ就イテ伺ヒマスカ、今前段ニ長ク申上デマシタヤウナ小學校ノ年代ト云フヤウナモノハ、是ヨリ手心或ハ僅法律ヲ拵ヘルト云フヤウナコトデハハナサツテ往クノデゴザイマスカ、是ハ今日ヨリ心掛ケレバ、矢張小學ハ若イ元氣ノモノニ、今日ノ如ク老人小學校ト云フモノデナク、青年其名ノ如キ小學校ヲ作ルノデアルケレドモ、大體教育方針ガ若シ國ノ元氣ト云フモノヲ發達サレチヤ政府ガ堪ラナイト云フヤウナ

コトガ、頭マニアリモ致シマスマイガ、左様ナ方針ガ表ニ顯レテ來ルノハイケマセヌガ、ソレマデニ就イテ御聽キ申シテ置キタイ
○文部大臣(侯爵西園寺公望君) 唯今ノハ、少モ此法案ニ就イテハ關係ガナイト考ヘマスカ答辯致シマセヌ
○田中正造君(二百九十番) 成程原案ノ中ニ、區々タル何トカストカ、此條目ノ内ニ就イテ質問スルノハ、説明委員ガアルカラ、之ニ聽キマスカ、大臣タル者ガ出タ以上ハ、此國ノ教育ノ大體ニ就イテ國ノ元氣ヲ養成スル、此人間ヲシツカリシタ人間ヲ拵ヘル目的デアルカ、或ハ文字ヲ知リサヘスレバ好イト云フ方針デアルカ、答辯カ何カナケレバナラヌ、(問題外)ト呼フ者アリ(何者デアアル、彼は(無用、問題外デアアル)ト呼フ者アリ)汝ガ知ル所ニアラズ(問題外ナリ)ト呼フ者アリ)汝等ガ知ル所ニアラズ、汝等蛆蟲議員ノ知ル所ニアラズ
○議長(楠本正隆君) 田中君——次ハ第八、右ニ關スル特別委員ノ選舉ノ件ニ移リマスカ

第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
○谷澤龍藏君(百六十二番) 此年功加俸國庫補助法案ト、サウシテ此次ノ第九ノ議案ノ審查ト共ニ同一ノ委員ヲ九名拵ヘテ議長ノ指名ニ致シタイ
(贊成々々異議ナシ異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 委員ハ十八名デスカ
○谷澤龍藏君(百六十二番) 委員ハ九名デ宜シイ
○議長(楠本正隆君) 九名ノ委員議長指名ト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ
○議長(楠本正隆君) 次ハ第九、公立學校職員退職料等ニ關スル法律案則讀ヲ省イテ議題ト爲シマスカ——西園寺君

第九 公立學校職員退職料等ニ關スル法律案 第一讀會
(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

第一條 明治二十三年法律第九十號ハ第十五條ヲ除キ市町村立ノ徒弟學校及實業補習學校ノ教員ニ適用シ同年法律第九十一號ハ第一條及第二十條ヲ除キ公立ノ高等女學校專門學校技藝學校及其ノ他ノ公立學校ノ學校長及教員ニ適用ス
第二條 明治二十三年法律第九十號第二條及同年法律第九十一號第三條ハ非職又ハ休職滿期ニ依リ退職シ及校務ノ伸縮ニ依リ退職ヲ命シタル場合ニモ適用ス
第三條 明治二十三年法律第九十號及同年法律第九十一號及此ノ法律ニ依リ退職料等ヲ受クヘキ學校長正教員ノ在職年月數ハ各公立學校ノ間ニ於テハ之ヲ通算ス
第四條 府縣立師範學校長タルシ者他ノ文官ト爲リ若クハ他ノ文官タリシ者府縣立師範學校長ト爲リタルトキハ其ノ在官年月數ハ明治二十三年法

律第九十一號及官吏恩給法ニ於テハ各其ノ規定スル所ニ依リ其ノ在官年數若クハ在職年數中ニ通算スヘキモノトス

附則

第五條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

〔文部大臣侯爵西園寺公望君演壇ニ登ル〕

○文部大臣(侯爵西園寺公望君) 諸君、公立學校ニ於テ適當ナル職員ヲ置グコトハ從來隨分困難ノコトデアリマシテ、本大臣ハ常ニ憂慮ヲ抱イテ居リマシタガ、今日ハ幸ニ此法案ガ議場ニ現レマシテ甚ダ喜ビマス、抑、公立學校ノ校長教員ナル者ハ多年ノ研究ヲ經マシテ相當ノ學術ガナクテハナリマセヌ、又人ノ師表ト爲ルノ品行ガナクテハナリマセヌ、社會ガ是等ノ人ニ向ッテ負ハシテ居ル所ノ責ト云フモノハ隨分重イモノデアアル、然ルニ其報酬ハ甚ダ薄イモノデアリマシテ、今試ニ全國ノ公立學校ノ職員ニ就イテ平均一人ノ俸給ヲ概算シテ見マスルト斯様ナモノデアリマス、師範學校、中學校等ニ在ッテ校長、教員ヲ通シテ一箇月ノ得ル所僅ニ三十二圓ニ過ギマセヌ、ソレカラ高等女學校、專門學校、技藝學校ニ在ッテモ同シク三十圓ヲ過ギナイ、徒弟學校、實業補習學校等ニ至ッテハ僅ニ十四圓未滿デアアル、小學校ニ至ッテハ十圓ニ充タナイ、斯ノ如キ薄給デアリマスカラ、教員タル者ガ自ラ俸給ノ幾分ヲ貯蓄シテ他日ノ計ヲ爲ス、老後ノ計ヲ爲スト云フヤウナコトハ出來マセヌノデアリマス、又相應ニ一家ヲ維持シテ子弟ノ教養ヲ全ウスルコトモ甚ダ難イノデアリマス、斯ノ如キ有様デアリマスルカラ、今日篤志者ヲ除イタ外ノ稍、材幹アル青年ハ、他ノ職業ニ就カンコトヲ欲スル者ガ多ウゴザイマス、教育上ノ眼カラ見ルト誠ニ恐ルベキコトデアアル、凡ソ教育上價値アル結果、其果ヲ收メント欲スルトキニハ、先ヅ校長、教員ガ長ク教職ニ在ルト云フコトハ必要ナコトデアリマス、嚮ニ明治二十三年ノ法律ヲ以テ、市町村立小學校、尋常師範學校、尋常中學校等ノ職員ニ對シテ退隱料等ノ制度ヲ設ケマシタガ、併シ是ハ此三種ノ學校ノ教員ニ限ッテ居リマシテ、他ノ公立學校ノ職員ハ此中ニ這入ッテ居リマセヌ、今日此高等女學校、徒弟學校、實業補習學校、專門學校、技藝學校等悉ク國家ニ必要ノモノデアリマシテ、最モ今日之ガ獎勵ヲ要スルノ時デアリマス、故ニ此法律ハ是等ノ學校ノ職員ニ向ッテモ、前ノ三種ノ學校ノ職員ニ向ッテ同ク、退隱料等ノ制度ヲ施サント欲スルノデアリマス、又此總テノ學校ノ職員ノ間ニ於テ互ニ在職ノ年數ヲ通算スルト云フノ制度ヲ設ケンコト欲スルノデアアル、之ヲ要スルニ教育上價値アル結果ヲ收メント欲スルニ外ナラヌノデアリマス、此法案ニハ詳細ナル理由ヲ附シテ置キマシタカラ、諸君ニハ既ニ十分ニ御了解ノコト、考ヘマス、餘リ多言ハ用ヒマセヌデゴザリマスガ、願ハクハ速ニ此議場ヲ通過ニナリマスコトヲ希望致シマス

○其下河十郎君(二百四十二番) 此第三條デゴザリマスルガ、此三條ノ教員退隱料ト云フモノハ、長ク其職ニ就カシメルガ精神デアルト云フコトハ承知致シマシタ、ソレデ此地方ノ學校アタリニ於キマシテハ、又地方ナラザルモ學校ニ長ク奉職ヲ致シ居ル側デゴザリマスルコト云フコトヲ、從前ノ一校ニ居ラヌデナラヌト云フ其法律ガ大分ニ效用ガアルヤウニ思フ、デ何故トナラバ一校ニ長ク居ラナケレバナラヌト云フ其教員ヲ、其地方ノ歡心ヲ失ハヌヤ

ウニ、又地方ノ人モ其人ヲ愛スル如キ點デ其地方ニ長ク居ルト云フ、斯ウ云フ都合ニナッテ居ル、又一方カラ論ジマスルナラバ、餘リ長ク教員ガ一ツ所ニ居リマスルト智識ノ交換ト云フモノガナイ、新智識ヲ注入スルニハ屢、教員ヲ交換スルガ宜イト云フ又一說モアル、マア斯ウ云フ有様デ、此三條ニ依ッテ見マスルナラバ、詰リドコノ校ヘ——甲ノ校カラ乙ノ校ヘ轉ジマシテモ、乙カラ丙ニ轉ジマシテモ、其學校ニ從事シテ居タ以上ト云フモノハ退隱料ガ受ケラル、斯ウ云フコトヲシテ思フノデアリマスガ、政府ノ考ノアル所ハ何ンデアアルカト云フコトヲ一寸確メテ置キマス

○政府委員(牧野伸顯君) 同一學校ニ勤務スル者ヲ獎勵スルト云フコトハ、大體上ニ於テ必要デアリマス、故ニ此恩給ノ事ハ本案ニ於キマレテモ勿論其事ハ盡シテアルコトデゴザイマス、現行法ニ於キマシテハ、高等女學校及徒弟學校、實業補習學校等ノ教員ニ對シマシテ何等ノ規程モナイノデ、新ニ此法案ヲ提出シテ他ノ公立學校職員同様に恩典ヲ與ヘヤウト云フ目的デゴザイマス、又公立學校ノ間ニ彼是轉任スル場合ニ於テハ其恩給ノ權利ガ他ニ移ルト云フコトハ、畢竟公立學校ノ間ニ於テ唯學校ガ變ルダケノコトデアラッテ、公務ニ奉職ト云フコトニ於テハ少シモ變ルコトハナイノデアリマス、故ニ此退隱等ノ場合ニ於テモ、此恩給ハ矢張移ッテ往クヤウニ法律ガ計ッテ遺ルト云フコトハ當然ノ事ト思ヒマス

○田中正造君(二百九十番) 文部大臣其他ニ於テ御答ガアルガ、是ハ問題外デアルト答ヘル、問題外ト云フト困ル、大層間違ッテ居ル

○議長(楠本正隆君) 田中君ニ御注意シマスガ、先刻ノ御質問ハ全ク問題外ニナリマスカラ……

○田中正造君(二百九十番) ツレ故ニ問題外デナイト云フコトヲ申シマス

○議長(楠本正隆君) 御注意ヲ致シマス

○田中正造君(二百九十番) 此取扱ニ於テ、本案ノ通ニ致シマシテカラガ、取扱上ニ於テ干涉壓制ト云フコトハ、手數ヲ經テ行ケバ此干涉壓制ノ結果ヲ見ルノデ、誠實ニ獎勵シ、誠實ト云フ手ヲ經テ往ケバ此金ハ誠實ト云フ結果ヲ見ルノデ、故ニ其因テ出ル所ハ大臣ノ頭マニ在ルノデ、大臣ノ頭マデ好イ法律ニモナリ、惡イ法律ニモナッテ往ク、惡イ法律ニナルト云フノハ漫

リニ依頼心ヲ起シテ其筋、其手續ノ人、ドウカ旨ク取扱ッテ貰ヒタイト云フヤウナ卑劣心ヲ起ス結果ニモナルシ、是ハ眞ニ有リ難イコトデアアル、國家デ斯ウ云フヤウニシテ下サルナラバ、身ヲ粉ニシテ此教育ノタメニハ盡サナケレバナラヌト云フ精神ニモナルノデ、何レニモナルノデ、是ハ大臣ノ頭マ一ツニアルコトダカラ、此原案ニ關係ノナイト云フコトハナイノデ、國家ノ元氣ヲ養成スルト云フ方デアアルカ、或ハ日本ノ古來ノ大切ナル大和魂ト云フヤウナモノハイラナイ、最早勤王ナント云フ文字ハイラナイト云フ心持デ生徒ノ教育ヲスルノデアアルカ、サウナラバ其積リデ遣ッテ往カナケレバナラヌト云フ所ニ此方針ガアルノデアアルカト云フコトヲ聽イテ置クノデアアル

○恆松隆慶君(五十番) 此法律案ニ於キマシテ、學校職員ノ退隱料ヲ與ヘルト致シマスレバ、全國デ其人員トカ金額トカ、地方ニ往キマシテハ區域ノ大小モゴザイマセウケレドモ、凡ソ平均ガ幾ラ位ナモノデアアラウト云フ御見込デモアリマスレバ承リタウゴザイマス

(政府委員文部書記官永井久一郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(永井久一郎君) 唯今ノ御尋ニ御答致シマス、茲ニ提出ニナリマシタル所ノ新法律ヲ施行スルニ就キマシテ、二十九年度ニ國庫、府縣等ノ經費ニ及ス所ノ大要ヲ申上ゲタラ御答ニナルト考ヘマス、高等女學校、專門學校、技藝學校等ノコトハ專ラ府縣立ニナツテ居ル、御承知デモマリマセウガ、府縣立師範學校、サウデナクテモ公立中學校トカ高等女學校トカ云フ方ハ、國庫カラ退隱料ヲ渡スコトニナツテ居リマスカラ、其代リ國庫ヘ教員ノ俸給ノ百分ノ一ヲ納メルコトニナツテ居リマス、又其學校ヲ設立シテ居ル所ノ府縣郡市デモ同ク教員ノ俸給ノ百分ノ一ノ金ヲ國庫ヘ納メルコトニナツテ居リマシテ、二十九年度ノ國庫ノ經濟ニ就キマシテハ收入ノ方ガ多イノデ、支出ノ方ガ少ナイ考デゴザイマス、ナゼト申スニ、教員ハ十五年以上勤續シナケレバ退隱料ハ貰ヘマセヌカラ、今日ハマダ退隱料ヲ貰フ人ハ誠ニ少ナイノデアアル、故ニ國庫ノ收入ノ方ガ支出ヨリ多イノデゴザイマシテ、即チ收入ノ超過ガ貳千五百圓モアル考デゴザイマス、ソレカラ又府縣ノ負擔ト云フモノハ、細カイトコヲ申シマス長タナリマスガ、凡ソ二十九年度ニハ全國ヲ通ジテ府縣カラ出スモノハ貳千六百拾七圓バカリ出ス考デアリマス、市町村ノ負擔ハ極ク少ナイモノデゴザイマシテ、凡ソ全國デ六百五拾圓程ノ増加ニナル、ソレデ御答ノ要領ヲ盡シタト考ヘマス

○議長(楠本正隆君) 委員ノ選舉法ハ既ニ決シマシテゴザイマス——第十

第十一 森林法案(政府提出)

第一議會

○議長(楠本正隆君) 朗讀ヲ省略致シマス——農商務大臣榎本武揚君

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

森林法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、官林、部分林、公有林、社寺林及民林ヲ云フ

第二條 原野、山岳、其ノ他ノ土地ニシテ國土保安上又ハ風致上造林ヲ要スルモノハ森林ニ準シテ此ノ法律ヲ適用ス

第二章 監督

第三條 公有林、社寺林及民林ニシテ其ノ經濟ノ保護ヲ損スル虞アルトキハ農商務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第四條 前條ノ森林ニ於テ過度ノ伐木又ハ幼樹ノ濫伐ヲ爲ス者アルトキハ農商務大臣ハ其ノ伐採ヲ停止シ及ク伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第五條 公有林、社寺林及民林ノ所有者前條ニ依リ命セラレタル造林ヲ怠リテ實施セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ七官三民ノ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林ノ伐木跡地ハ伐採後五箇年以内ニ造林スヘシ

第七條 舊來ノ無立木又ハ荒廢ノ林地ハ此ノ法律施行後三十箇年以内ニ造林スヘシ但農商務大臣ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ其ノ期限ヲ延長スルコトヲ得

第八條 公有林、社寺林及民林ニ對スル前條造林期限內ノ造林年度區分ハ府縣知事農商務大臣ノ認可ヲ經テ令達スヘシ

第九條 無立木若クハ荒廢ノ林地ニシテ新ニ造林シタルモノハ其ノ部分ニ限リ翌年ヨリ十五箇年間地租ヲ免ス

第十條 公有林、社寺林及民林ヲ開墾シ又ハ其ノ地目ヲ變換セントスル者ハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

燒畑切替畑ハ開墾ニ準ス

第十一條 森林ニシテ左ニ掲クル箇所ニ當ルモノハ開墾スルコトヲ得ス

一 山頂、山腹、崖岸、其ノ他ノ傾斜地ニシテ土砂崩落流出ノ虞アル箇所

二 砂濱、砂阜、其ノ他ノ砂地ニシテ飛砂ノ虞アル箇所

三 護岸敷設ニ堤防敷ニシテ出水氾濫ノ防備ヲ要スル箇所

四 風潮ノ侵害ヲ防衛スヘキ林相ヲ要スル箇所

五 額雪墜石ノ危險ヲ防止スヘキ林樹ヲ要スル箇所

六 水源涵養ニ必要ナル箇所

七 水害ヲ避除スルニ必要ナル箇所

八 沿岸ノ魚附ニ必要ナル箇所

第十二條 前條ニ該當スル公有林、社寺林及民林ハ府縣知事ノ許可ヲ得シテ皆伐、土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得

第十三條 第三條 保存林

第十四條 第十一條ニ列記シタル森林及左ニ掲クルモノハ保存林ニ編入スルコトヲ得

一 社寺又ハ名所舊跡ノ風致ニ必要ナル森林

二 廻船ノ目標ニ必要ナル森林

三 國郡ノ境界標示ニ必要ナル森林

四 衛生ニ必要ナル森林

第十五條 保存林ハ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタル場合ヲ除ク外之ヲ解除スルコトヲ得

第十六條 保存林ノ編入及解除ハ農商務大臣之ヲ決定ス

第十七條 府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十八條 府縣知事ニ於テ保存林ノ編入、解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方森林會ニ諮問スヘシ

第十六條ノ申請ニシテ府縣知事ニ於テ必要ヲ認メサルモノハ直ニ却下スヘシ

第十九條 保存林ノ編入、解除ニシテ一府縣以上ノ利害ニ關係ヲ有スルトキハ當該府縣知事協議ノ上各其ノ地方森林會ニ諮問スヘシ若シ協議調ハサルトキハ農商務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十條 保存林ノ編入又ハ解除ニ就キ地方森林會ニ諮問セントスルトキハ其ノ開會三十日以前ニ於テ府縣知事ヨリ其ノ森林ノ所有者並ニ大林區署、土木監督署ニ其ノ旨ヲ通知シ且府縣公報ヲ以テ告示シ二十日間所在町村役場ニ揭示スヘシ

第二十一條 保存林ニ編入ノ爲メ地方森林會ニ諮問スヘキ森林ハ前條告示ノ日ヨリ處分決定ノ日迄其ノ木竹ノ伐採、土石切芝ノ採取及樹根ノ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 保存林ニ編入シ又ハ之ヲ解除スヘキ森林ノ所有者及其ノ編入、解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入、解除ニ異議アルトキハ第二十二條ノ通知又ハ告示ノ日ヨリ二十日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第二十三條 府縣知事ハ地方森林會ノ議決書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第二十四條 第十九條ノ場合ヲ除ク外地方森林會ニ於テ保存林ノ編入又ハ解除ヲ否決シタル場合ニ於テ府縣知事其ノ議決ヲ是認スルトキハ第十五條及前條ノ規程ニ依ラス直ニ其ノ旨ヲ告示シ且其ノ所有者ニ通達スヘシ

第二十五條 保存林ノ編入、解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ其ノ所有者ニ通達スヘシ

第二十六條 保存林ニ編入シ又ハ之ヲ解除スヘキ森林ノ所有者及其ノ編入、解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者ニシテ其ノ編入、解除ニ關シ農商務大臣又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アルトキハ第二十四條又ハ前條ノ告示若クハ通達ノ日及第十八條ノ却下ノ日ヨリ八十日以内ニ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二十七條 農商務大臣ハ保存林ニ對シ特ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十八條 保存林ニ於テハ皆伐開墾、土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 農商務大臣ハ保存林ニシテ特ニ禁伐ノ必要アルモノニ對シ其ノ伐木ヲ禁止スルコトヲ得

第三十條 農商務大臣ハ保存林ニ砂防其ノ他保護ニ關スル工事ヲ施設スルコトヲ得

第三十一條 保存林ノ所有者第二十七條ニ依リ指定シタル營林及保護ノ方法ヲ實施セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收スルコトヲ

得

第三十二條 保存林ニ編入セラレタル爲メ生シタル損害ニ對シテハ補償ヲ求ムルコトヲ得ス

第三十三條 保存林ニ對シテハ地租其ノ他公課ノ半額ヲ免ス但禁伐ヲ命シタルトキハ其ノ全額ヲ免ス

第三十四條 官地私木ノ森林ニシテ保存林ニ編入セラレタルモノハ借地料ノ全部又ハ一部ヲ免ス

第三十五條 從來ノ禁伐林、風致林、伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保存林トス

第三十六條 保存林ノ調査及其ノ編入、解除並ニ地方森林會ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四章 林業組合

第三十七條 社寺林又ハ民林ノ所有者森林ノ經濟及保護ノ爲メ林業組合ヲ設立セントスルトキハ農商務大臣定ムル所ノ準則ニ從ヒ規約ヲ定メ其ノ區域內森林所有者半數以上ノ同意ヲ得テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三十八條 府縣知事林業組合ヲ必要ト認ムルトキハ地方森林會ニ諮問ヲ經テ其ノ設立ヲ命スルコトヲ得

第三十九條 林業組合ヲ設立シタルトキハ其ノ區域內ニ於ケル社寺林又ハ民林ノ所有者ハ當然其ノ組合員トス但府縣知事ニ於テ其ノ必要ナシト認ムル者ハ組合員トナラサルコトヲ得

第四十條 林業組合員其ノ組合ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ其ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第四十一條 本章ノ規程ニ依レル府縣知事ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ其ノ處分若クハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十二條 林業組合ノ組織及設立手續ハ農商務大臣之ヲ定ム

第五章 森林警察

第四十三條 官廳ノ許可又ハ所有者ノ承諾ヲ得シテ他人ノ森林內ニ牛馬車轎ヲ牽入レ若クハ鋸、斧、鐮、鉋其ノ他林產物採取ノ器具ヲ攜帶シテ立入ルコトヲ得ス

第四十四條 官林ニ於テ林業ニ從事シ又ハ林產物ヲ採取セントスル者ハ特ニ許可ヲ得タル者ヲ除ク外當該官廳ニ出願シテ入林鑑札ヲ受ケ入林ノ際ニ之ヲ攜帶スヘシ

第四十五條 入林鑑札ハ他人ニ讓渡若クハ貸與スルコトヲ得ス

第四十六條 伐木造材ヲ業トスル者ハ其ノ使用スル切判及印ヲ所轄警察署ニ届置クヘシ

第四十七條 伐木造材ヲ業トスル者ハ森林內ニ於テ使用スル鋸、斧、鉋ニ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

無檢印ノ鋸斧又ハ鉋ハ森林内ニ於テ使用スルコトヲ得ス

第四十八條 木材賣買ノ業トスル者ハ其ノ使用スル記號印章ヲ所轄警察署ニ届出且其ノ賣買シタル木材ノ出所品種數量及代價ヲ帳簿ニ記入シ置クヘシ

第四十九條 林產物ニ用井ル官ノ記號印章ニ類似スル記號印章ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十條 記號又ハ印影ナキ木材ハ賣買若クハ運搬スルコトヲ得ス但小割薪材ハ此ノ限ニアラス

第五十一條 森林内ニ於テハ官廳ノ許可又ハ所有者ノ承諾ヲ得シテ造林ヲ爲スコトヲ得ス

第五十二條 官林ニ於テハ日出前日没後伐木若クハ造林ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 貯藏若クハ運搬中ノ木材又ハ伐木造林若クハ木材賣買ノ業トスル者ノ手帳簿器具等ニ對シ當該吏員ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條 森林内ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第五十五條 森林接續ノ原野ニ於テ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

第五十六條 濫ニ森林内ニ於テ焚火ヲ爲シ又ハ森林内ニ炬火ヲ攜帶スルコトヲ得ス

第五十七條 針葉樹林ニ於テ柴草枯死ノ季節中發火ノ虞アル場所ニ於テ喫煙スルコトヲ得ス

第五十八條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災若クハ虫害アルヲ發見シタル者ハ直ニ森林官吏警察官吏又ハ郡市町村吏ニ申告スヘシ

第五十九條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災若クハ虫害アルトキハ地元人民ハ其ノ消防若クハ驅除ニ從事スヘシ

第六十條 森林ニ關スル罪ヲ犯シ若クハ犯サントスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏警察官吏又ハ郡市町村吏ニ申告スヘシ

第六章 罰則

第六十一條 森林ノ主副產物ニシテ未タ人工ヲ加ヘサルモノ又ハ既ニ人工ヲ加フルモノ未タ森林外ニ搬出セサルモノヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トス

第六十二條 森林ノ主產物トハ樹幹、樹枝、樹根、竹及造林材ヲ云ヒ副產物トハ樹皮、樹液、樹實、樹葉、落枝、小柴、雜草、菌、蘗、竹、土、石ヲ云フ

林地ニ產スル三極楮及蔓本植物ハ副產物ニ準ス

第六十三條 森林竊盜ヲ犯シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 森林竊盜ニシテ左ノ一項若クハ數項ニ該當スルトキハ贓額ニ倍以下ノ罰金又ハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但罰金ハ二圓以上トシ且贓額以下ニ下スコトヲ得ス

一 販賣ノ目的ヲ以テ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

二 夜間ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

三 鋸又ハ斧ヲ使用シテ其罪ヲ犯シタルトキ

四 面部ヲ包ミ又ハ塗りテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

五 贓物搬出ノ爲メ牛、馬、車、轎ヲ牽入レ又ハ出材ノ爲メ著シキ設備ヲ爲シタルトキ

六 母樹ヲ採伐シタルトキ

七 樟ヲ竊取シタルトキ

八 樹根ヲ採掘シタルトキ

九 十年生以下ノ潤葉樹又ハ二十年生以下ノ針葉樹ヲ伐採シタルトキ

十 保存林又ハ開墾禁止ノ林地ニ於テ土石切芝ヲ採取シタルトキ

第六十五條 森林竊盜ニシテ左ノ一項若クハ數項ニ該當スルトキハ贓額ニ倍以下ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但罰金ハ二圓以上トシ且贓額以下ニ下スコトヲ得ス

一 伐根ヲ毀壞若クハ隱蔽シテ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタルトキ

二 贓物ヲ原料トシテ森林内又ハ其ノ近傍ニ於テ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ

三 贓物ヲ燃料トシテ森林内又ハ其ノ近傍ニ於テ鑛物ヲ精煉シ石灰、煉化石、瓦其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ

四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲メ船ヲ艀シテ犯場ニ赴キタルトキ

五 保存林又ハ開墾禁止ノ林地ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ

六 林產物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

七 三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

八 契約上森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ

九 差押ノ贓物ヲ隱匿燒棄又ハ再ヒ竊取シタルトキ

第六十六條 森林竊盜ハ未タ遂ケサルモノト雖既遂犯ヲ以テ論ス

第六十七條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ贓額ニ倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス但罰金ハ二圓以上トシ且贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第六十八條 森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條 他人ノ林地ヲ侵墾シタル者ハ一段歩毎ニ二圓以上四圓以下ノ罰金ニ處ス但一段歩未滿ハ一段歩ニ計算ス

第七十條 因テ林產物ヲ竊取燒燬又ハ傷害シタル者ハ各本條ニ依テ處斷ス

第七十一條 他人ノ所有ニ屬スル保存林又ハ開墾禁止ノ林地ヲ侵墾シタル者ハ前條罰金ノ外仍一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第七十二條 林產物ニ用井ル他人ノ記號印章ヲ偽造シテ使用シ若クハ其ノ記號印章ヲ盜用シタル者ハ刑法ノ私印偽造及盜用ノ例ニ照シ一等ヲ減シテ處斷ス

第七十三條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主產物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

第七十三條 森林官吏森林又ハ林產物ノ賣却、讓與、交換、貸與、委託若クハ森林ノ境界調査ニ關シ自己又ハ他人ヲ利スル爲メ不正ノ所爲アリタルトキハ刑法第二百八十四條第二項ニ依テ處斷ス

第七十四條 森林ノ看守人其ノ他雇員賄賂ヲ收受シタルトキハ刑法第二百八十四條ニ依テ處斷ス

第七十五條 堤柵ヲ開キ又ハ樑柵ヲ斷テ他人ノ木材ヲ放流シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十六條 森林又ハ林產物ノ競争入札ニ際シ強テ入札者ヲ連合セシメタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 他人ノ森林内ニ於テ左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス但官廳ノ許可又ハ所有者ノ承諾ヲ得タル者ハ此ノ限ニアラス

一 家屋其ノ他ノ建築物ヲ設ケタル者

二 溜池ヲ造リ又ハ通路若クハ水路ヲ設ケタル者

三 出材ノ設備ヲ爲シタル者

第七十八條 牛馬其ノ他ノ家畜ヲ放牧シタル者
第七十九條 森林ノ伐區又ハ測點ヲ表シタル物件ヲ移轉若クハ毀壞シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 樹木、造材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若クハ消除シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 官林ノ主產物拂下ヲ受ケタル者引渡以前ニ伐採ニ著手シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 官林ノ副產物拂下ヲ受ケタル者引渡以前ニ採取ニ著手シタルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十二條 官林ノ產物ニシテ特ニ使用ノ目的ヲ定メテ拂下ヲ受ケタル者當該官廳ノ許可ヲ得シテ其ノ拂受物件ヲ當初指定ノ目的外ニ使用シ又ハ轉賣讓與若クハ交換ヲ爲シタルトキハ拂下總價格ニ等シキ罰金ニ處ス情ヲ知テ取得シタル者亦同シ

第八十三條 官林ニ於テ引渡ヲ受クルト雖其ノ檢印ナキ主產物ヲ伐採シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條 木材賣買ヲ業トスル者左ノ諸件ヲ犯シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス但小割薪材ノ賣買ハ此ノ限ニアラス

一 記號印影ナキ木材又ハ偽造ト認ムヘキ記號印影ヲ附シタル木材ヲ買得シタルトキ

二 住所氏名判然セサル者ヨリ木材ヲ買得シタルトキ

第八十五條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ買得物件ハ之ヲ沒收ス但贓物ニ係ルトキハ沒收後一箇年ヲ限リ被害者ノ請求ニ依リ還付スヘシ

第八十六條 保存林又ハ第十一條ノ林地ヲ開墾シタル者ハ一段歩毎ニ二圓ノ罰金ニ處ス但一段歩未滿ハ一段歩ニ計算ス

第八十七條 保存林又ハ第十一條ノ森林ニ於テ皆伐若クハ制限以外ノ伐木ヲ爲シ又ハ第二十九條ノ伐木禁止ノ命令ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 保存林ニ於テ土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲シ又ハ第十二條第二十一條第四十八條第五十四條及第五十五條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 第十條第四十三條第四十九條第五十條及第五十一條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 第五十三條及第五十六條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條 第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第五十二條及第五十七條ニ違背シ又ハ第五十九條ノ場合ニ於テ當該吏員ノ召集ヲ受ケ正當ノ理由ナクシテ其ノ召集ニ應セサル者ハ五十圓以上一圓九十五圓以下ノ科料ニ處ス

第九十二條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第七章 雜則

第九十三條 森林竊盜ノ贓額ノ計算ハ農商務大臣ノ定ムル林產物價格標準調書ニ依ルヘシ其ノ調書ナキモノハ各地ノ時價ニ依ル

第九十四條 森林竊盜ノ贓物ハ窃取後人工ヲ加ヘタルモノト雖其ノ還給ヲ求ムルコトヲ得但贓物ニ加ヘタル勞費ハ償フヲ要セス

第九十五條 森林ニ關スル公訴附帶ノ私訴ニ對シ判決アリタル後ト雖積雪其ノ他避ク可ラサル事變ニ因リ充分被害ノ調査ヲ爲ス能ハサリシコトヲ證明スルトキハ判決後六箇月以内ニ於テ更ニ原裁判所ニ私訴ヲ爲シ損害ノ追償ヲ求ムルコトヲ得

第九十六條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者罰金又ハ科料ヲ納ムルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ所爲ニ對シ民法上損害賠償ノ責ニ任スル者ハ其ノ罰金又ハ科料ヲ代納スヘキモノトス

第九十七條 森林ニ關スル犯罪ニシテ此ノ法律ニ明文ナク刑法其ノ他法律規則ニ罰例アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第九十八條 此ノ法律中官林ニ關スル規程ハ御料林ニ適用ス

第九十九條 竹林並ニ北海道、沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ關シテハ第十一條及第十三條ニ該當スルモノニ限リ此ノ法律ヲ適用ス但保存林ノ編入、解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百條 地租改正ノ際官有ニ編入セラレタル森林原野ニ對シ民有タルヘキ證據ニ依リ地所又ハ立木竹ノ引戻ヲ請フ者ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年間ニ請求スルニアラサレハ其ノ權利ヲ失フモノトス

第一百一條 社寺林又ハ治水ニ關シ特別ノ必要アルトキハ別ニ法令ヲ以テ其ノ規程ヲ設クルコトヲ妨ケス

第二百一節 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

(農商務大臣子爵榎本武揚君演壇ニ登ル)

○農商務大臣(子爵榎本武揚君) 諸君、是ヨリ森林法案ガ議場ニ上リマスルニ就キマシテ、一通リ本案提出ノ理由ヲ陳述致シマス、諸君、御承知ノ通り森林ハ水源ヲ養ヒ、土壤ヲ肥シ、國土ノ保安ハ勿論農工業百般ノ經濟ヨリ延イテ日用ノ助ヲ爲シマス所ノ一大要素デアリマスルカラ、之ヲ保護スルニ完全ナル制度ヲ設ケネバナラヌト云フコトハ、今更喋々スルマデモナイコトデゴザリマシテ、殊ニ我國森林ノ面積ハ新領地ヲ除キマシテ凡ソ二千三百四十餘万町歩、即チ全土面積ノ大半ヲ占メテ居リマスニ、國家經濟上最モ注意セネバナラヌト云フコトハ無論デアリマス、既ニ昔日封建ノ時代ニ於キマシテハ、各藩共ニツレツレノ適宜ノ法令ガ有リマシテ、彼ノ森林ノ取締ヨリ伐採ノ制限、植付ノ方法ヲ頗ル見ルベキモノガアリマシテ、殊ニ彼ノ盜伐トカ放火トカ其他森林ノ犯罪ニ係ル罰則ハ至リマシテ、今日ノ學說法理上ヨリ見マスルト隨分苛酷ノモノガアリマスルガ、併シ是等ノ御蔭ヲ以テ森林ノ保護並ニ利用ガ出來テ居ッタノデアル、然ルニ維新後ハ、政體ノ改革ト共ニ舊藩ノ林制ハ全ク廢シテ、爾來二十又餘年間、民林ニ在リマシテハ伐ルモ植ユルモ俱ニ適宜ノ度ヲ失ヒ、官林ニ於キマシテモ亦彼ノ盜伐侵墾ナドノ弊ヲ免レルコトガ出來マセズニ今日ニ至リマシタ、從來政府ハ行政上ニ於キマシテ森林保護ノ手段ヲ盡サナカッタノデハアリマセヌガ、僅ニ一二ノ法令ヲ除ク外ハ完全ナル法律ガ成立致シテ居リマセヌ故、一方ニ於キマシテハ森林經濟ノ基礎ガ一定致シマセヌ、又他ノ一方ニ於キマシテハ人間業ノ障礙ヲ蒙リマシテ、遺憾ナガラ官林、民林共ニ年々逐ツテ荒廢レ、其結果トシテ水源ハ涸レ、山地ハ崩レ、旱魃、水害交々、疎リマシテ、各地方ニ彼ノ治水ノ困難ヲ惹起スガ如キ弊害ヲ見ルニ至リマシタ、加フルニ又維新以來殖産興業ノ道ガ次第ニ發達スルト共ニ社會一般材木ノ需用ガ頓ニ増加致シマシタニ附キ、其供給力モ亦從ツテ豐カナラネバナリマセヌ、旁々以テ從來ノ弊害ヲ矯正スルト同時ニ森林ノ増殖ヲ獎勵スルコトガ國家緊急ノ要務ト相成リマシタ、尤モ是ヨリ先キ政府ハ舊藩時代ノ法令及習慣ヲ調査致シテ、之ニ歐羅巴諸國ノ制度典章ヲ參酌致シマシテ、明治十五年中ニ一旦森林法案ヲ起草致シタコトガアリマシタガ、當時林政ノ機關ガ未ダ備ハリマセヌガタメニ、先ヅ以テ森林ノ大半ヲ占メテ居リマス官林ノ實務ヲ整理スルコトヲ唯一ノ目的ト致シマシテ、或ハ學校ヲ立テ、林務ニ從事スル人物ヲ養成シ、或ハ林區ノ制度ヲ設ケマシテ林業ノ經濟ヲ整理スルト同時ニ、民林ニ就キマシテハ林業組合ナルモノヲ設ケサセ、或ハ巡迴教師ヲ派遣シ、或ハ保存林ヲ調査致シテ、多少森林ヲ保護シ、並ニ植樹スルコトヲ獎勵致シマシタルニ依リ、民間ニ於キマシテモ今日ハ漸ク愛林ノ思想ヲ喚起スルヤウニナリマシタ、サリナガラ未ダ森林ニ一定ノ法律ガ無キコトハ今日モ矢張昔日ト變リマセヌ、林業ノ弊害ガアリマシテモ之ヲ矯正スルノ必要ナル制裁ガゴザリマセズ、又森林ノ加害ヲ防グノ

手段モ十分ニ備ハリ居リマセヌ故、サテハ森林法ノ制定ハ最早一日モ緩ウスルコトハ出來得ヌト云フ場合ニ立至リマシタ、是則チ政府ガ此度ノ議會ニ向ツテ本案ヲ提出致シマス所以デアリマス、希ハクハ滿場ノ諸君、國家百年ノ經濟上ノタメニ速ニ本案ヲ御協賛アラント希望致シマス

○田中正造君(二百九十番) 此山林取締ニ就イテ色々ノ法律ガ先ヅナケレバナラヌト云フ大層宜イモノデゴザリマスガ、法律バカリ出來テモ、精神ガツコニ往カナケレバナラヌ、第一之ヲ取扱フ農商務ト云フモノガ法律ヲ輕シテハナラヌカラ御話スルガ、一體法律ノ無イ時代ニモ一般ノ人民ハ非常ニ古イ所ノ教デ、山ノ木ヲ伐ルニ大抵木ヲ伐ル時ト云フモノヲ知ツテ居ル、寒イ時ニ伐ル、寒イ時ニ伐ラナイト云フト、後ノ薪ガ出來ナイト云フコトヲ知ツテ居ル、奇體ニ知ツテ居ル、是ハ即チ宜ク日本ノ輕蔑スル所ノ、戰爭以來殊ニ輕蔑スル所ノ支那ノ教デアル、斧斤時ヲ以テ山林ニ入ルト云フコトヲ能ク知ツテ居ル、所ガ之ヲ農商務ガ知ラヌ、農商務ニ於テハ山林ヲ拂下ヲスルト、此伐木年限ヲ二年、三年ト附ケテ許スノガ幾ラモアル、此拂下ヲ受ケタ者ハ、春デモ夏デモイツデモバタリノ自分ノ都合ノ良イ時ニ伐ツテ居ル、ソコデ一體ノ普通ノ法律ノ教育ノナイ人民ガ知ツテ居ルノヲ、農商務ガ知ラヌト云ツテ、幾ラ法律ヲ指ヘテモ仕様ガナイノデアル、故ニ本案ニ對シテ、細カイ所ヲ質問スルノハ又政府委員ガ困リマセウガ、第一農商務大臣ノ頭マニ訴ヘテ置カナケレバナラヌノハ、第七議會ニ於テ私ガ質問シタコトモ答辯ガ未ダナイノガアル、熊本山林ノ交換事件デアル、先ヅ六十五圓ノ價ノアル山ト二萬圓ノ山ト取換ヘツコトヲシタ、陸奥宗光君ガ農商務大臣デ居ル時デアル、熊本ノ町ノ裏ニアル所ノ楠ノ山デアル、其質問ハ誰ガ見テモ六十五萬圓ノ價ノアル山ト價二萬圓位ノ山ト交換シタ、ソレガドウ云フ手續デサウ云フコトヲシナケレバナラヌ事情ガ農商務ニアルモノデアルカ、ソレヲ質問シタ所ガ、其答辯ガ未ダ今日マデナイ、是シヤイケナイノデアル、是デハドンナ立派ナ良イ法律ガ出來テモ、又議院法ガアツテモ、憲法ガアツテモ、第七議會ノ質問ノ答辯ガ第九議會ニ至ル迄陰ガ見エナイト云フヤウデハ往カヌノデアル、前ノ陸奥宗光君ノ農商務大臣デ居ル時ノコトデゴザリマスカラシテ、御問合セナスツテ、其時ノ質問書ニ對シテ直グニ御答辯ヲ伺ヒタイト云フ、サウ云フ無理ナコトヲ申スノデナイカラ、緩ッカリ考ヘテ、緩ッカリ調ベテ、國家ニ對シテ責任アル答辯ヲ希望スル

○中村克昌君(二百七十一番) 此案ノ百條ニ地租改正ノ當時ニ官有ニ編入セラレタル森林原野云々トアル、即チ民有タルノ證據ヲ以テ引戻シ方ヲ請求シテ來レバ則チ下戻スト云フヤウナ意味ニ承知致シマス、是ハ舊來社等ニ屬シテ居ル社寺森林ノ如キモノヲ指スノデゴザリマスガ、社寺ニ屬シテ森林ノ如キモノハ固ヨリ民有ト云ハザルヲ得マセヌ、其社寺ノ其土地ニ屬シテ共有ノモノデアレバ、社寺ニ屬シタ森林ノ如キハ民有タル證據ガ明カデアラウト思ヒマス、斯ノ如キ社寺ニ屬シタ森林ノ如キモノヲ以テ請求ヲシテ來ル場ニハ引

戻スコトガ出来マスカ、一應質問ヲ致シマス

(政府委員農商務省山林局長高橋琢也君演壇ニ登ル)

○政府委員(高橋琢也君) 唯今百七十一番カノ御尋デアリマシタガ、此法案ノ雜則ノ中ニ載ツテ居リマスル地租改正ノ際ニ云々ト申シマスル引戻ハ、社寺デモ社寺林ノ中ニゴザイマスル、ソレハ社寺ノ所有デアッタモノデハゴザイマセヌ、矢張社寺ノ中デ、或ハ寺院ノ僧侶ナリ、又ハ神職ナリ、是等ノ私有ニ屬シテ居リマスル部分デゴザイマス譯デ、矢張普通ノ人民ト同ジ様ニ下戻ヲ許スコトモ出来ル、又是マデ戻シタ例モアリマス、併シ普通ノ社寺上知林ト申ス類ノ如キハ、全ク下戻ノ類ヘハ這入リマセヌノデアリマス

○佐藤忠望君(二百三十五番) 第七條ニ舊來ノ無立木又ハ荒廢ノ林地ハ云々トアル、此箇條ニハ所謂此林場ト云フヤウナモノモ這入ッテ居リマスカ、或ハ是ハ這入ラヌノデスカ

○政府委員(高橋琢也君) 御質問ノ要領ガ、聽取レマセヌガ林場ノヤウナモノハ這入ッテ居ルカ、ドウカト云フノデスカ

○佐藤忠望君(二百三十五番) 尙第十三條ノ——是迄ノ制度ニ依ルト、水源涵養及國土保安ニ必要ナルモノハ伐採ヲ禁ズト云フコトニナッテ居リマスガ、即チ涵養ニ必要ナルモノハ禁伐林ト云フヤウニ認メラレテ居ッタ場所モアル、然ルニ此保存林中ニハ水源涵養及國土保安ニ必要ナル箇所ト云フヤウナモノハ入レテゴザイマセヌガ、アレハドウ云フ理由デアリマスカ、ソレカラ今一ツハ地方森林ト云フヤウナモノ、組織ハドウ云フ組織ニセラル、ノデアアルカ、此法案ニハ明文ガゴザイマセヌ、此組織ヲ伺ヒタイ

○政府委員(高橋琢也君) 三問題ノヤウデゴザイマシタガ、最初ノ御尋ガ先キニモ申上ゲマス通、要領ヲ得マセナシタ、原野ヲ包含シテ居ルト云フヤウナコトデアリマシタガ、何條ノ事デゴザイマスカ

○佐藤忠望君(二百三十五番) 第七條ニ舊來ノ無立木又ハ荒廢ノ林地トゴザイマス、此中ニハ從來林數ヲ成シマセヌ即チ所謂林場ト云フヤウナモノガアッテ、農家ノモノガ年々草ヲ刈取ッテ居ル土地ガアル、是ヲモ第七條中ニ包含レテ居ッテ、三十年以内ニハ此中ニ這入ッテ來ルヤ否ヤ

○政府委員(高橋琢也君) 御答致シマス、第七條ニゴザイマスノハ舊來ノ無立木又ハ荒廢ノ林地ト、アノ林地デ押ヘテ居ッテ無立木ノ林地又ハ荒廢ノ林地ト云フ意味デゴザイマシテ、原野ハ包含シテ居リマセヌ、ソレカラ此保存林中ニハ水源涵養ノ森林ガ這入ッテ居ラヌ、斯ウ云フ御尋デゴザイマシタガ、這入ッテ居ルノデゴザイマス、ト云フモノハ、此第十一條ノ第六項ニゴザイマス水源涵養ニ必要ナル箇所ト云フ、是ガ即第十三條ニ第十一條ニ列記シタル森林トアッテ、矢張是ガ保存林ニ這入リマスコトニナリマス、ソレカラ第三ノ御尋デ、地方森林會ノ組織ハ府縣ノ高等官、ソレカラ其他ハ地方ニ於キマシテ森林學上、森林技術上、之ニ經驗ノアルモノヲ委員ト致シマシテ、ソレ

カラ、其他ハ大林區署長、若クハ次ノ林務官、ソレカラ土木監督署長、若クハ其次席ノ技師、ソレカラ、地方ニ依ッテハ大林區署ノゴザイマセヌ所ガアル、所謂御料局支廳ノゴザイマス處、是ハ御料局支廳長、若クハ其次席ニ於テ矢張林務ニ從事シテ居ルモノ、是等ヲ以テ組織スル積リデゴザイマス

○磯部十藏君(百九十一番) 唯今北海道、沖繩縣ヲ除キマシテ東北ヨリ九州ニ互ッテ、各縣ニ散在ヲ致シテ居ル官有原野ガ七十六万町歩程アリマス、此官有原野ノ七十六万町歩ト云フモノハ、森林法ノ第二條ノ場合ニ遭遇ヲ除クノ外、明治二十三年四月勅令第六十九號、二十四年六月勅令第六十六號、此勅令ニ當リマシテ緣故拂下ノ件ニ差障リマスル所ノ條項ハ、此森林法ニハナイト云フ考デアリマスカ

○政府委員(高橋琢也君) 御答致シマスルガ、勅令ノ六十九號ニ依ッテ緣故拂下ヲスベキ原野ノコトガ此法案ノ上ニ載ッテ居ラヌカト云フノデアリマスカ

○磯部十藏君(百九十一番) 此法案ニ對シテ拂下ノコトハ差支ヘルコトハナイカト云フデスカ

○政府委員(高橋琢也君) 此法案ニハ拂下ノ事ハ舉ッテ居リマセヌ

○磯部十藏君(百九十一番) サウ致シマスルト、此官有原野ノ拂下ト云フモノハ、二十一年農商務省ノ内訓ヲ以テ暫ク差止メラレテアッタ、然ルヲ二十八年ノ六月ニ内訓ヲ以テ前ノ内訓ハ廢止ニナリマシタ、是ガ廢止ニナッタ以上ハ……

○政府委員(高橋琢也君) 出來ルカト仰シヤルノデスカ——無論デゴザリマス

○磯部十藏君(百九十一番) 其後各府縣ヨリ續々出願ヲ致シタモノモアルヤウニ考ヘマスガ、其邊ニ對シテ是迄許可ニナッタモノガアリマスカ否ヤ一ツ伺ヒタイ

○政府委員(高橋琢也君) 官有原野ハ澤山デゴザイマス、拂下グタモノハ澤山ゴザイマス

○恆松隆慶君(五十番) 五十番ハ最早委員附托ニナランコトヲ希望致シマス、一寸意見ヲ述ベテ置キマス、此問題ハ重問題デゴザリマシテ、ドウカ十八名ノ委員……

(「贊成々々」ノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 委員ノ選舉ノ件ニ移リマス——十二名デスカ

第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○恆松隆慶君(五十番) 十八名——議長ノ指名ニ委任スル

○議長(楠本正隆君) 十八名——議長ノ指名ニ委任スル

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 御異議ナシト認メマス、明日ノ議事日程ヲ報ジマス

(佐脇書記官朗讀)

議事日程 第十二號 明治二十九年一月二十五日(土曜日)

午後一時開議

第一 明治二十八年勅令第四百十四號(政府提出貴族院送)

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三 司法官試補實地修習期間ニ關スル法律案

第一讀會

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五 明治二十八年勅令第九十二號(政府提出承諾)

(特別委員) 長報告

第六 理事ノ恩給及遺族扶助ニ關スル法律案

第一讀會ノ續(特別委員) 長報告

第七 官設鐵道用品資金增加法律案

第一讀會ノ續(特別委員) 長報告

第八 官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金ヨリ買入ル、トキ前金掛概算渡ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員) 長報告

○議長(楠本正隆君) 是ニテ散會ヲ報シマス

午後三時三分散會